

第2次京丹後市観光振興計画（素案）

「極上のふるさと観光づくり」



琴引浜〔国指定天然記念物及び名勝〕

平成 年 月

京丹後市

< 目 次 >

はじめに

序 計画概要

1 計画の目的	2
2 計画の内容	3
3 京丹後市観光立市推進条例	5
4 検討体制	5

第1章 現状と課題

1 一般的な観光動向	7
2 京丹後市の観光の現状	10
3 観光振興の課題整理	31

第2章 将来ビジョン

1 コンセプト	41
2 目標数値	41
3 基本方針とテーマ	42

第3章 アクションプラン

1 重点戦略プロジェクト	44
2 アクションプランメニュー	48

第4章 地域別計画

1 地域別計画の目標とテーマ	58
2 地域別計画	59

< 参考資料 > ※添付予定

- 1 京丹後市観光立市推進条例
- 2 計画策定の経緯
- 3 観光資源一覧
- 4 観光関連事業の補助制度・関係法令
- 5 その他の主な意見

※ 用語説明 <本文中※の付いた用語はこちらを参照してください>

序 計画概要

1 計画の目的

京丹後市の観光産業は、夏季の海水浴、冬季のカニを中心に、昭和50年代頃から平成10年頃までは大きく成長し、平成10年には年間観光入込客数が220万人、年間観光消費額は103億円（1人当たりの消費額4,624円）にまで達しました。

しかし、近年の少子化と海水浴離れ、カニによる誘客がピークを過ぎたことに加え、旅行形態の変化、旅行ニーズの多様化、国内観光地の競争激化、海外旅行の増加、停滞する経済状況などの要因により、平成17年以降の観光入込客数は200万人を割ったまま減少傾向にあるなど、大変厳しい状況にあり、新たな観光の魅力づくりや観光戦略が求められています。

平成20年4月に京丹後市観光協会が発足し、観光振興の推進基盤が整備されたのを機に、本市の豊富な観光資源を活かした総合的・効果的な観光振興をより一層推進するため、京丹後市観光立市推進条例の趣旨に基づき、平成21年6月に「京丹後市観光振興計画～極上のふるさと観光づくり～」(以下「第1次計画」という。)を策定し、観光立市の実現に向けた取り組みを進めてきました。

この間、平成23年3月の東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の発生による観光旅行の自粛、経済不況や少子化などによる国内宿泊観光旅行の回数の減少、地域間競争の激化、情報通信技術の発達などの社会環境の変化、団体旅行の減少、旅行目的の変化、訪日外国人旅行者の増加など、旅行形態や観光ニーズの変化がより顕著となっています。

平成22年10月には山陰海岸ジオパーク※が世界ジオパークネットワーク※に加盟が認定され、ジオパークを中心にした体験型観光の取り組みや市域内及び市域外での連携が進んできており、さらにこのような取り組みを強化していく必要があります。

とりわけ、来る平成26年度には、待望の京都縦貫自動車道や舞鶴若狭道小浜・敦賀間が全線開通し、京丹後と京都、北大阪、北陸・名古屋との交通アクセスが格段に向上する機会を好機として、観光基盤の整備・誘致方策の実施など総合的な対応が大変重要となっています。

このため、第1次計画の検証と見直しを行うことにより、これらの諸課題について対応し、観光立市の実現を目指すべく、「第2次京丹後市観光振興計画～極上のふるさと観光づくり～」(以下「第2次計画」という。)を策定するものです。

なお、この計画は、市、観光関係団体、観光事業者、市民などが観光立市の実現という共通の目標に向かって、それぞれの立場で取り組むものと位置づけます。

2 計画の内容

(1)明らかにすべき計画の内容

- ①京丹後市の観光の現状と課題を明らかにします
 - 観光入込客数、観光施設の利用、観光資源、主要観光施策などの状況、現状を明らかにします
 - 観光振興の課題は何かを明らかにします
- ②将来ビジョンと目標を明らかにします
 - 観光振興のコンセプト※を明らかにします
 - 将来の目標を明らかにします
- ③実行性のある「アクションプラン※」と「地域別計画」を明らかにします
 - 5つの基本方針と、それに基づく「アクションプラン」を明らかにします
 - 地域の現状と特色を活かした「地域別計画」を明らかにします
 - これまでの取り組みを踏まえて具体的な「重点戦略プロジェクト」を明らかにします

(2)計画の位置づけ

①関連計画などとの整理

○観光立国推進基本法・観光立国推進基本計画【国】

平成19年1月に施行された「観光立国推進基本法」に基づき、観光立国の実現に関する諸施策の総合的かつ計画的な推進を図るために策定された「観光立国推進基本計画」の基本的な方針（以下のとおり）、内容との整合性に留意しました。

- (1) 震災からの復興 —観光が、復興を支え、日本を元気づける—
- (2) 国民経済の発展 —観光が、日本経済と地域を再生する—
- (3) 国際相互理解の増進 —観光が、世界を惹きつける—
- (4) 国民生活の安定向上 —観光が、人生を楽しく豊かにする—

○京都府アクションプラン【京都府】

平成20年度に改定された「京都府アクションプラン」の重点施策（以下のとおり）、内容との整合性に留意しました。

- ・「日本の心にふれる旅」誘客プロジェクトの実施
- ・プロジェクト実施のための基盤づくり
- ・来訪者に優しい京都ならではの「おもてなし」の充実

○第二次丹後地域観光振興プラン【丹後広域観光キャンペーン協議会※】

平成22年度に策定された「丹後地域観光振興プラン」のコンセプト※（以下のとおり）、推進方針（以下のとおり）、内容との整合性に留意しました。

- ・コンセプト 「私のふるさと丹後 発見！」
—うみ・さと・やまの癒しと健康のふるさと観光—
- ・推進方針 「商品開発と情報発信を重点に 丹後の観光力を高めよう！」

○京都府丹後観光圏※整備実施計画【丹後広域観光キャンペーン協議会※】

平成20年10月に国の認定を受けた、丹後3市2町で実施する「京都府丹後観光圏整備実施計画」の目標、事業との整合性に留意しました。

- ・事業名 丹後の海、山、里の多様な魅力を活かした「ふるさと観光」による滞在力強化事業

○第1次京丹後市総合計画・後期基本計画【京丹後市】

平成22年3月に策定した「第1次京丹後市総合計画・後期基本計画」にある観光振興施策の方針（以下のとおり）、内容との整合性に留意しました。

「極上のふるさと観光づくり」の実現／地域資源の保全と活用／歴史文化の保全と活用／観光資源のネットワーク／四季型滞在観光の推進／健康志向に対応した観光の推進／環境先進地としてのエコツーリズム※の推進／情報発信の強化／交流の機会づくり

○京丹後市まちづくり基本条例【京丹後市】

平成20年に施行された、「京丹後市まちづくり基本条例」にうたわれる、まちづくりを進めていくうえでの基本的な考え方やルールに留意しました。

②計画の位置づけ

○計画の役割

京丹後市観光立市推進条例の趣旨に基づき、観光立市の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための具体的な取り組みとして、第1次計画を改定して第2次計画を策定しました。

○計画期間

第1次計画は、期間を3年間として計画の推進に取り組んできたところですが、「極上のふるさと」を目指した観光地づくりには、より中期的な視点を持ち、取り組みを継続していくことが必要なことから、第2次計画の計画期間は5年間(平成25年度～29年度)とし、5年ごとに見直すものとします。

○第2次計画の意味・意義

- ・第2次計画は、第1次計画の実績や環境の変化を踏まえて、市、観光関係団体、観光事業者、市民などがその内容を十分認識し、観光立市の実現という目標に向かって、さらにそれぞれの立場で実行するものです。
- ・今回の第2次計画は、マスタープラン※としての第1次計画を評価し、基本的な考え方は踏襲しつつ、テーマ毎の施策提案である「アクションプラン※」を中心

により具体的な事業を掘り下げるなどの整理を行いました。なお、これまで実施または着手できなかったものについては、継続的に検討すべき項目として整理しました。

3 京丹後市観光立市推進条例

京丹後市観光立市推進条例は、観光立市を実現するための基本理念を定め、市の責務及び市民、観光事業者、観光関係団体の役割を明らかにするとともに、観光立市の実現に関する施策の基本となる事項を定めたもので、京丹後市議会（観光振興条例調査特別委員会）により提案され、平成21年3月に制定、同4月1日に施行されました。

第2次計画は、本条例の趣旨に基づくものであり、内容についても整合性を図りました。

※京丹後市観光立市推進条例の全文は参考資料を参照

4 検討体制

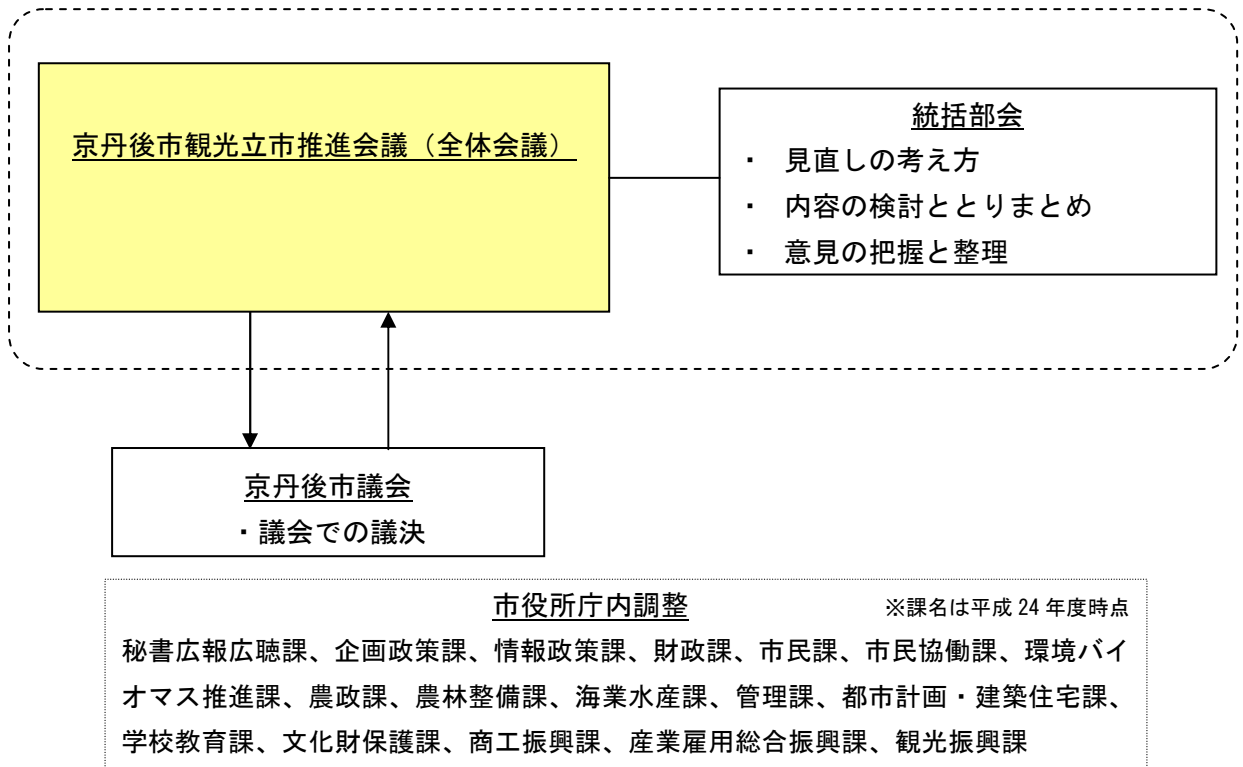
京丹後市観光立市推進条例に基づき京丹後市観光立市推進会議を設置し、計画の進捗状況、推進についての確認と協議、及び計画の見直しについて検討を行いました。また、京丹後市観光立市推進会議には、統括部会を設け、見直しの考え方などについて検討を行いました。

(1)京丹後市観光立市推進会議委員選出団体

京丹後市観光協会、京丹後市商工会、NPO法人全国まちづくりサポートセンター丹後支所、京丹後◎おかみさんの会、市内観光施設、観光事業者、有識者（市内各地域代表、大学教授など）、京都府、市関係課

(2) 検討組織図

◇図－1 京丹後市観光立市推進会議 検討組織図



※委員名簿、検討経緯は参考資料を参照

(3) 計画の推進及び見直しの検討

京丹後市観光立市推進条例に基づき京丹後市観光立市推進会議を設置し、計画の進捗状況、推進についての確認と協議を行うとともに、計画の見直しについて検討を行います。

※京丹後市観光立市推進会議の設置、組織などについては、参考資料「京丹後市観光立市推進条例」を参照

第1章 現状と課題

1 一般的な観光動向

(1) 観光政策の動向

① 観光は、地域づくりの基本的なテーマです

「観光」の語源は、中国の古い書物によると「国の光を観る」と記されています。観光の「光」とは、景色の意味ではなく、国や地域が持つ光、文化や芸術などの様々な魅力を観るということであり、地域の側からすると「魅力ある資源を発見し、磨き上げ、観てもらおう知恵」のこともあります。観光は旅人が他の地域を訪ね、その地方にしかない、その地方にだけある知恵と工夫を観る、それが本来の意味です。観光は物見遊山の短絡的な遊びという概念ではなく、地域の活性化にとって取り組まなければならない永遠のテーマであることが、古い時代の書物からも推察されます。

② 観光は国の基幹産業として位置づけられています

先進諸国やアジア地域の近隣諸国では、観光産業は国家にとって重要な基幹産業と位置づけられ、組織としての観光省、その長としての観光大臣があり、税金の投入対象として国策が展開されています。特に、アジア地域は、世界の観光産業をリードする需要が見込まれ、観光需要が急速に拡大しつつあります。

③ 我が国においても観光庁が設立され、観光が重要な政策課題となってきました。

平成20年10月に観光庁が設立され、観光立国推進基本法などに基づき、観光振興を本格的に推進する体制が整い、事業が進められるようになってきました。観光立国推進の基本は「住みたいところが、訪れたいところ」にあり、地域資源を活かした観光地づくりは全国各地で行われ、観光は国際的な競争の時代に入っています。

また、平成19年1月に施行された観光立国推進基本法の規定に基づき、観光立国の実現に関する基本的な計画として新たな「観光立国推進基本計画」が平成24年3月に閣議決定されました。観光をめぐる現在の課題を克服し、日本の成長を牽引するべくこれから5年間に更なる飛躍をするため、「観光の裾野の拡大」と「観光の質の向上」が掲げられています。このように、観光は国においても成長戦略の柱の一つであり、また、東日本大震災からの復興にも大きく貢献するものとして取り組まれています。

(2) 社会環境の変化

① 東日本大震災の影響

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は被災地に壊滅的な打撃を与え、観光分野にも大きな影響を及ぼしました。発生時は国内外に不安感や自粛ムードが広が

り、旅行者数は過去最大の減少幅を見せましたが、国からの情報発信や主要国政府への働きかけ等により、東北地方は依然として厳しい状況に置かれているものの訪日旅行・国内旅行への不安が軽減され、徐々に全体的な回復傾向にあります。

②国内宿泊観光旅行の回数が減少

円高により海外旅行が増加する一方、世界的な金融危機による景気低迷の影響や、趣味・レジャーの多様化による旅行の魅力の相対的な低下、また少子高齢化により減少傾向にあります。

③観光資源としての観光地の魅力を活かした地域間競争の激化

旅行者ニーズの多様化を踏まえ、地域固有の資源を活用した魅力ある旅行商品の造成・販売など、新たな旅行需要の創出と地域の活性化を図る取り組みは全国に広がっており、地域間競争が激化しています。

④情報通信技術の発達

マスメディア、ホームページに加えて、ブログ※、SNS※、携帯電話等で、インターネットを通じた情報収集が可能となり、さらにスマートフォンの急激な普及によって、ますます多くの情報を個人で簡単に入手して、短時間に旅行の組み立てができるようになり、旅行形態の多様化が進行しています。

(3)観光マーケットの動向

①インバウンド※志向

観光のグローバル化※により、国内だけでなく海外からの観光客も視野に置く必要がでてきています。国内への観光を目的とした訪日外客数は、東日本大震災の影響が収束したことから、平成24年は平成23年に比べて6割近い伸び率を見せており、近隣のアジア諸国を主要なマーケットとして、観光は海外からの観光客を対象とするインバウンドの時代を迎えています。

②ターゲットとしてのアクティブシニア志向、女性志向

団塊の世代が退職期を迎えていることから、中高年の観光需要が顕著となっています。特に、健康で積極的な人生を楽しもうとするアクティブシニア（活動的な中高年）は、時間と経済的な余裕を背景に注目されています。また、観光需要を牽引する女性の感覚に訴えることも重要になっています。

③個人旅行志向

観光形態の変化に伴い、団体観光を中心とした量的な対応から、個人旅行を中心としたきめ細かな対応が必要となっています。個人対応のサービス、ホスピタリティ※など、心の感動につながる内容が求められています。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、人々が身近な心のつながりを大切に感じ、これまでのエ

エネルギー依存の生活様式からの脱却を求めるなど、基本的な価値観の変化が見られ、観光に期待する質的变化を注視していく必要があります。

④着地型観光※志向

地域の資源を活かした魅力ある観光商品の提供は、地域の人々が提供してはじめて実現できることから、これを観光客が出発する需要地の旅行会社が造成するには限界があります。また、発地の旅行会社がリードすると、地域の観光産業への寄与は軽減される恐れがあります。このため、地域の旅行会社などが主導する着地型の観光が徐々に増加しています。

(4)観光活動の動向

①オンリーワン観光

どこにでもある観光商品や土産物への人気は継続せず、そこにしかない資源を活かした商品を提供する「オンリーワン」の観光が求められるようになっていきます。地産地消によるそこにしかない食の提供もそのひとつです。

②滞在型観光

観光は、短時間でできるだけ多くの施設などを巡るものよりも、ゆっくりと滞在し、まるでそこに住んでいるかのような生活感覚のあるものが高い評価を得ています。

「住んでよし」の魅力に自信を持って観光につなげていくことが重要になっています。

③体験型観光

観光施設や資源を見るだけでなく、実際に参加して、体を使って経験することによって、臨場感のある、ほんまもんを味わえる観光商品が求められています。特に、地域の魅力を伝える人材として、観光ガイドの重要性が高まっています。

④まち歩き観光

スローライフ※は観光の場面でも求められており、地域の文化や生活が集合している「まち」には、歴史・文化資源や街並み、祭り、食事処などが集積しており、これらをじっくり歩いてその場の空気を感じる観光が人気を得ています。散策が楽しくなるまちづくりはその基本となっています。

⑤泊食分離の地域観光

これまでの宿泊形態は、1泊2食による料金設定が主流でしたが、夕食はできるだけ地域の人々と同じ食事を希望する、宿泊と食事を別々にする泊食分離の形態が人気を得ています。地域の料亭や食堂などが観光客にサービスできること、宿においては2泊目は外食にするなどの対応ができることが、滞在型観光にもメリットとなります。

(5)京丹後市を取り巻く状況

- ①山陰海岸ジオパーク※の世界ジオパークネットワーク※加盟認定(平成22年10月)
- ②鳥取豊岡宮津自動車道 与謝天橋立ICの開通によるアクセス改善(平成23年3月)
- ③舞鶴港が日本海側拠点港に選定されたことによる東アジアとの交流の促進
(平成23年11月)

2 京丹後市の観光の現状

(1)概況

①京丹後市の概要

- 市制施行 平成16年4月1日
- 面積 501.84平方キロメートル
- 人口 60,053人(平成24年12月末現在:住民基本台帳による)

京丹後市は日本列島のほぼ中央、京都府北部の日本海に面する位置にあり、美しい海岸線や四季の表情豊かな自然、豊富な温泉、新鮮な魚介類やお米、果物などの海の幸や山の幸、そして歴史と伝説、文化にあふれ、あらゆる観光資源に恵まれています。

しかし、これらの豊かな資源を有しながら、その魅力を活かしきれていないのが現状です。

②観光地としての「京丹後市」

観光地としては、古くから夏季の海水浴スポットとして賑わいを見せ、昭和50年代からは、冬季の「カニと温泉」による戦略が功を奏し、大きく成長を遂げました。

しかし、「夕日ヶ浦」や「間人ガニ」などの名称は有名になったものの、合併して8年が経過する中「京丹後市」の地名は、京阪神では観光地として一定の認知をされているものの、首都圏など全国での知名度は低く、近隣の観光地「城崎温泉」、「天橋立」と比較して印象が弱いことは否めません。

③観光形態

観光客は夏季、冬季とも京阪神地方の方が中心で、交通アクセスの改善により日帰り客が増加傾向にあります。また、宿泊については1泊が中心で、滞在時間は短く、城崎、出石、天橋立など近隣の観光地へ移動するパターンが多く見受けられます。

④アクセス状況

京都縦貫自動車道、鳥取豊岡宮津自動車道などの道路整備が進み、京阪神地方からのアクセス条件は改善されてきました。しかし、鉄道については、大阪から京丹後市への直通特急がなくなるなど、地域の公共交通の利便性に課題が残されています。また、首都圏からのアクセス条件は悪く、今後、首都圏からの誘客を推進させるためには、飛行機などによるアクセスの改善が望まれます。

○アクセス所用時間

■大阪、神戸、京都から

- ・車で約2時間15分 ※与謝天橋立I.Cから25分
- ・列車で約2時間30分

■東京から

- ・車（東名高速、名神高速、北陸道経由）で約7時間30分
- ・列車（新幹線利用）で約5時間
- ・飛行機（大阪空港、コウノトリ但馬空港経由）で約3時間30分

■近隣観光地から

- ・天橋立から車で40分、丹後半島1周ルートで約2時間
- ・城崎温泉から車で50分

■関西国際空港から

- ・車（近畿道、中国道、舞鶴道、京都縦貫道経由）で約3時間20分

◇図—2 京丹後市交通アクセス図



⑤市内観光地の状況

主な宿泊エリア及び温泉地は東西にわたる海岸沿いに広がり、海水浴、海岸景観を活かし、本市観光の中心を担っています。

一方、内陸部には豊かな自然を活かしたアウトドア施設、体験施設、農業公園、日帰り温泉施設などが点在し、観光エリアは市の全域に広がります。

広範囲にわたる観光地を周遊するための公共交通網の整備をさらに進め、観光地及び観光施設間の連携を推進することが今後の課題です。

◇ 図-3 京丹後市内公共交通マップ

京丹後市内公共交通マップ

～市内全域で丹海バス・市営バス
全ての路線が上限200円バスです～

バス路線等一覧

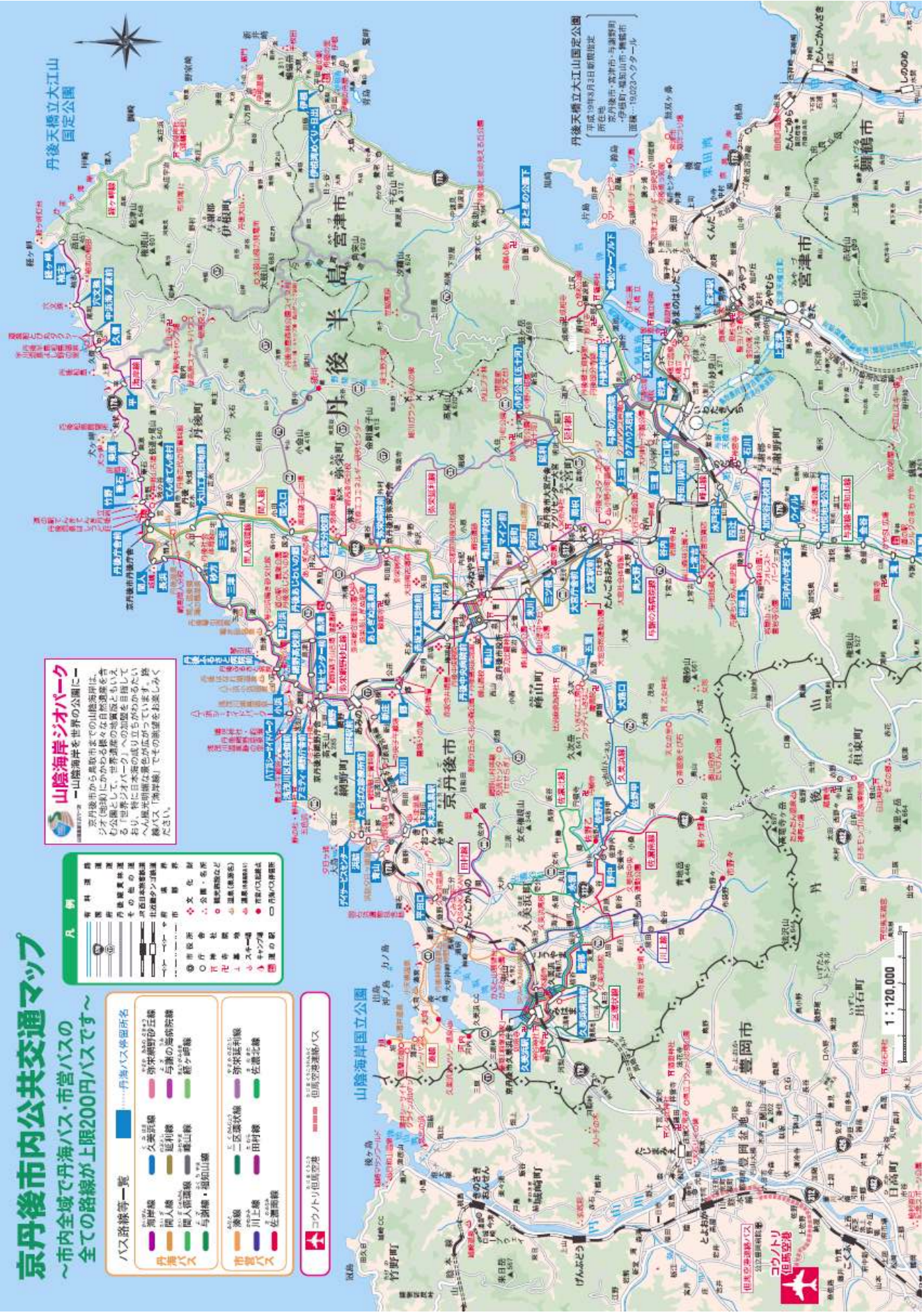
丹海バス体面所名	久美武線	二区環状線	新宮線
丹海線	南人線	川上線	佐濃北線
丹波線	丹波線	田阿線	佐濃北線
丹波線	丹波線	田阿線	佐濃北線
丹波線	丹波線	田阿線	佐濃北線

コウノトリ包尾空港バス

山陰海岸ジオパーク
 一山陰海岸を世界の公園に
 京丹後市から鳥取市までの山陰海岸は、ジオ(地球)にかかわる様々な自然現象を含む公園として、世界遺産の地質景観ともいえる「世界ジオパーク」への加盟を目指している。特に日本海の成り立ちがわかるたいへん風光明媚な景色が広がっています。路線バス「南紀線」でその雄姿をお楽しみください。

凡例

丹海バス体面所名	久美武線	二区環状線	新宮線
丹海線	南人線	川上線	佐濃北線
丹波線	丹波線	田阿線	佐濃北線
丹波線	丹波線	田阿線	佐濃北線
丹波線	丹波線	田阿線	佐濃北線



(2)観光入込客数の状況

①観光入込客の状況と特徴

○昭和50年代頃からのカニ料理と温泉を中心とした戦略が功を奏し、平成10年頃まで大幅に入込客が増加し、平成10年には年間入込客数が220万人に達しました。

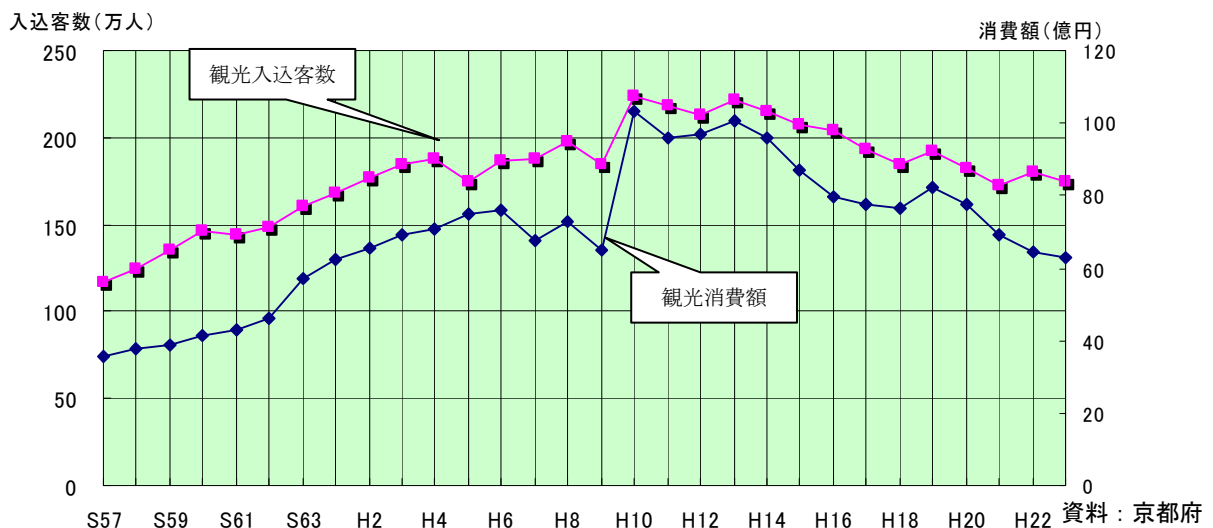
○近年は、海水浴離れ、カニによる誘客がピークを過ぎたことに加え、旅行客のニーズの多様化、停滞する経済状況などの要因により、平成17年以降の入込客数は200万人を割るなど、減少傾向が続いています。

○夏季の海水浴、冬季のカニを軸とした二季型の観光地で、4月、6月、9月、10月の入込客が少ない状況にあります。

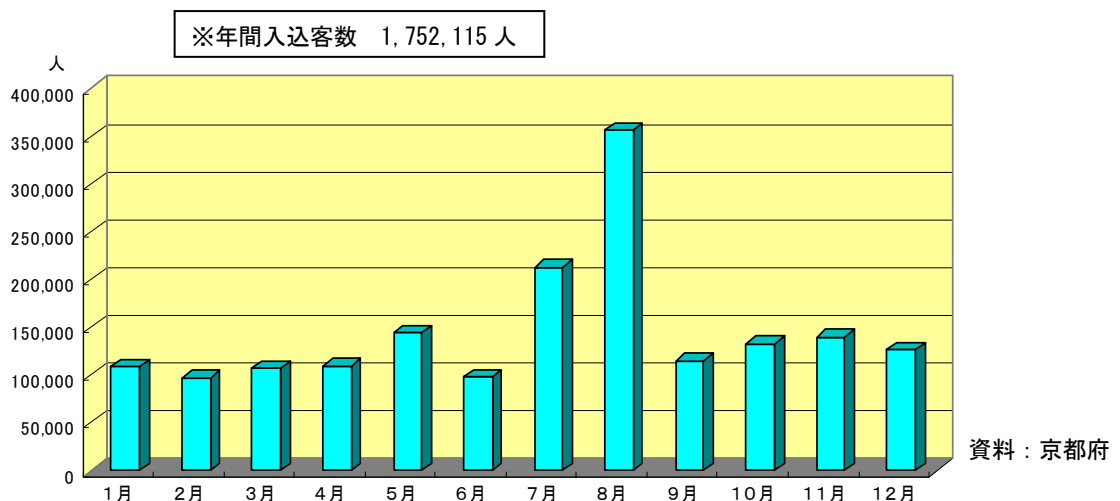
○夏季、冬季とも京阪神地方からの観光客が最も多く、日帰りまたは1泊の短期滞在が中心です。

○外国人観光客が少ない状況にあります。(外国人宿泊者数は宮津市の11%)

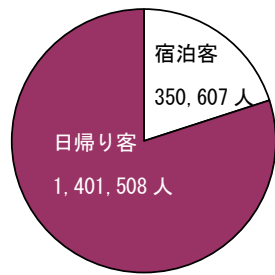
◇図-4 観光入込客数・観光消費額の推移 (S57~H23)



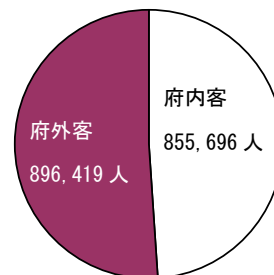
◇図-5 平成23年観光入込客数 (月別)



◇図-6 平成23年観光入込客数（宿泊客・日帰り客別、府内客・府外客別）

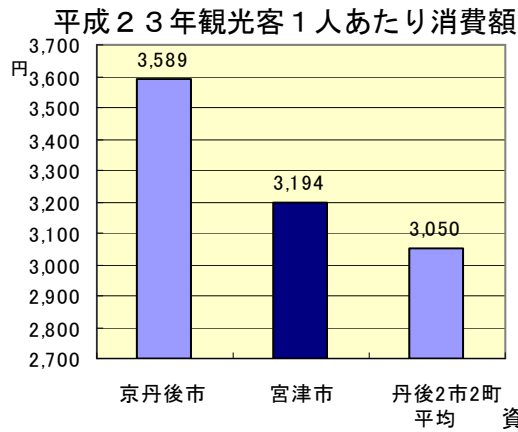


資料：京都府

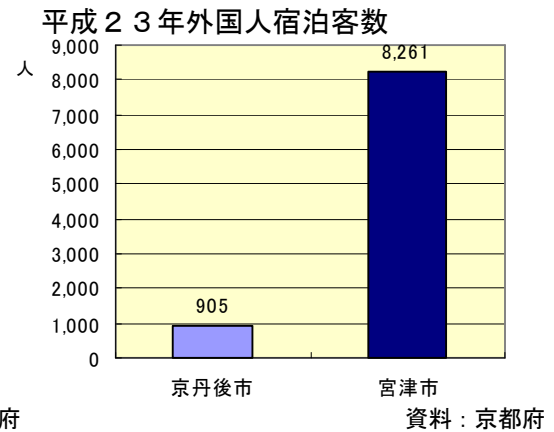


資料：京都府

◇図-7



◇図-8



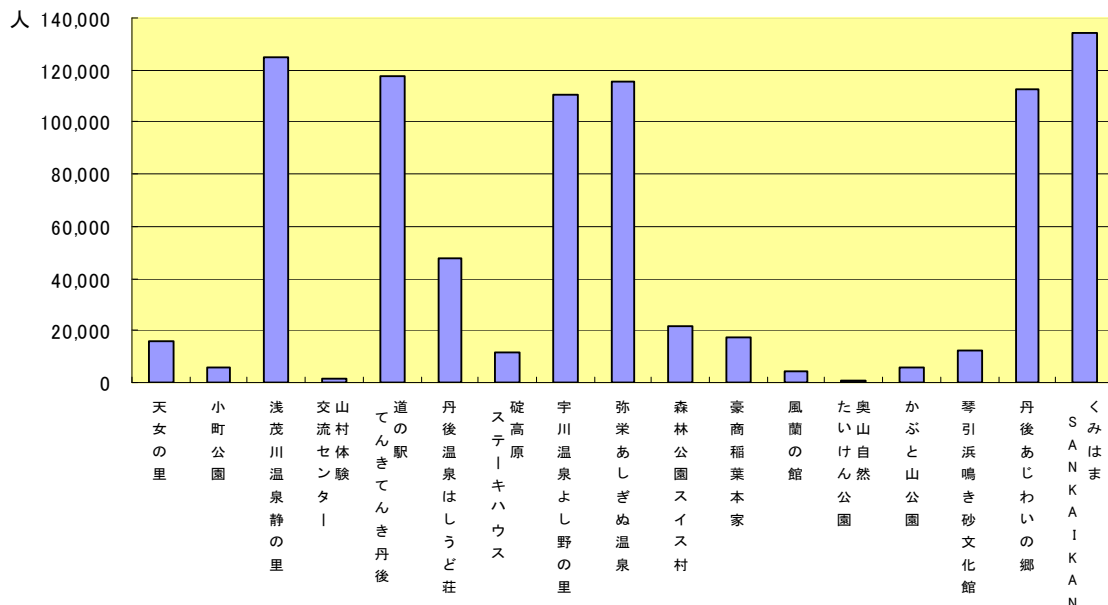
(3)観光施設などの利用状況

①観光施設などの状況と特徴

- 公共観光施設については、平成18年9月から指定管理者制度※を導入し、民間活力による利用増進を図っています。
- 種類別では、道の駅がこの5年間ほぼ増加傾向を保っているものの、アウトドア施設を含め他については、市全体の入込客数同様減少傾向にあります。
- 海水浴場の入込客数は年々減少しています。昭和50年代と比較すると近年は半数を下回っており、少子化、レジャー・休暇の過ごし方の多様化の影響が現れています。

◇図-9 平成23年主要観光施設の利用状況

資料：京丹後市観光振興課



②主要観光施設利用状況の推移

◇表—1 アウトドア・体験施設利用状況の推移

資料：京丹後市観光振興課

施設名	区分	19年	20年	21年	22年	23年
天女の里	入込客数	20,278	20,277	18,654	16,161	16,547
	対前年比	117.7%	100.0%	92.0%	86.6%	102.4%
森林公園 スイス村	入込客数	14,191	19,201	16,886	21,886	13,735
	対前年比	72.0%	135.3%	87.9%	129.6%	62.8%
奥山自然た いけん公園	入込客数	2,863	3,044	1,437	1,067	1,440
	対前年比	100.1%	106.3%	47.2%	74.3%	135.0%
かぶと山公 園	入込客数	4,679	4,562	5,612	5,730	6,210
	対前年比	93.3%	97.5%	123.0%	102.1%	108.4%

◇表—2 宿泊施設利用状況の推移

資料：京丹後市観光振興課

施設名	区分	19年	20年	21年	22年	23年
山村体験交 流センター	入込客数	3,313	2,433	2,680	1,703	1,358
	対前年比	89.2%	73.4%	110.2%	63.5%	79.7%
丹後温泉は しうど荘	入込客数	56,035	50,695	50,029	47,512	47,225
	対前年比	90.3%	90.5%	98.7%	95.0%	99.4%
宇川温泉よ し野の里	入込客数	116,318	108,812	119,316	110,085	94,414
	対前年比	106.0%	93.5%	109.7%	92.3%	85.8%
風蘭の館	入込客数	6,542	6,367	6,950	4,569	3,486
	対前年比	97.4%	97.3%	109.3%	65.7%	76.3%

※全施設とも食事客、丹後温泉はしうど荘、宇川温泉よし野の里は外湯利用者を含む

◇表—3 外湯施設利用状況の推移

資料：京丹後市観光振興課

施設名	区分	19年	20年	21年	22年	23年
浅茂川温泉 静の里	入込客数	143,462	137,160	129,765	125,092	123,277
	対前年比	104.2%	95.6%	94.6%	96.4%	98.5%
弥栄あしぎ ぬ温泉	入込客数	111,077	116,648	114,276	115,455	117,057
	対前年比	103.3%	105.0%	98.0%	101.0%	101.4%
おおみや小 町温泉	入込客数	63,243	65,615	33,652	52,922	62,877
	対前年比	94.6%	103.8%	51.3%	157.3%	118.8%

◇表—4 その他観光施設利用状況の推移

資料：京丹後市観光振興課

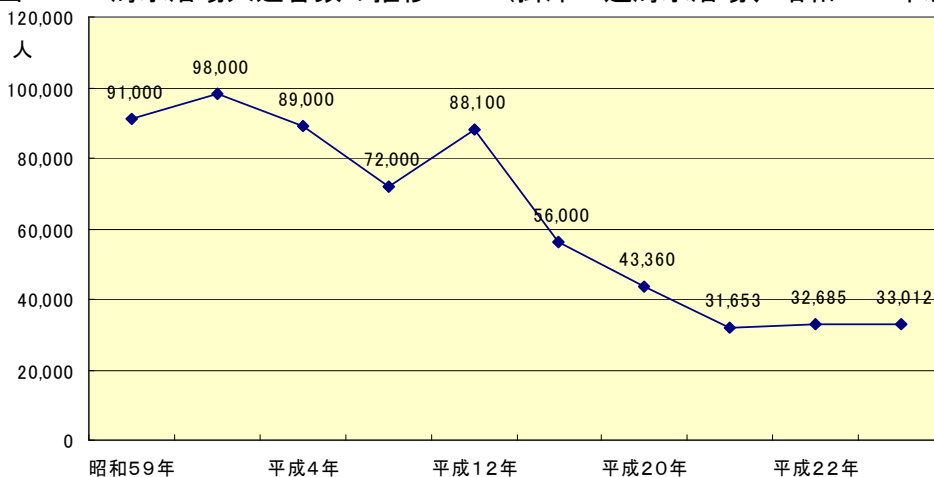
施設名	区分	19年	20年	21年	22年	23年
小町公園	入込客数	7,610	6,813	7,463	5,880	4,743
	対前年比	151.7%	89.5%	109.5%	78.8%	80.7%
道の駅てんき てんき丹後	入込客数	131,976	117,464	116,916	117,846	116,212
	対前年比	108.9%	89.0%	99.5%	100.8%	98.6%
碓高原ステ ーキハウス	入込客数	15,125	13,403	13,489	11,581	8,350
	対前年比	88.7%	88.6%	100.6%	85.9%	72.1%
豪商稲葉本 家	入込客数	20,485	20,921	19,608	17,261	19,894
	対前年比	109.0%	102.1%	93.7%	88.0%	115.3%
琴引浜鳴き 砂文化館	入込客数	15,074	13,613	12,918	12,099	11,863
	対前年比	107.5%	90.3%	94.9%	93.7%	98.0%
丹後あじわ いの郷 (道の駅登録)	入込客数	84,856	86,792	91,479	112,688	107,050
	対前年比	93.4%	102.3%	105.4%	123.2%	95.0%
くみはま SANKAIKAN (道の駅登録)	入込客数	112,774	120,797	79,855	133,957	162,186
	対前年比	98.4%	107.1%	66.1%	167.8%	121.1%

◇表—5 海水浴場入込客数の推移—1（全海水浴場）

海水浴場名	19年	20年	21年	22年	23年
浜 詰	44,160	48,134	27,510	37,904	33,735
浅茂川	18,500	16,650	9,324	13,986	12,867
小 浜	10,380	10,158	5,485	7,974	6,698
掛津・遊	47,130	43,360	31,653	32,685	33,012
砂 方	3,292	4,872	4,677	5,982	5,085
後ヶ浜	13,542	2,438	2,316	3,474	3,717
竹 野	1,022	1,308	1,112	1,422	1,436
中 浜	4,384	4,293	3,220	2,553	2,272
久 僧	1,811	2,628	1,130	1,445	1,517
平・上野	21,541	30,804	25,875	30,995	30,065
蒲井浜	5,054	4,599	1,932	2,471	2,224
小天橋	34,666	34,319	17,503	22,448	23,121
葛野浜	29,975	28,177	20,569	26,307	23,150
箱石浜	2,107	1,854	1,168	1,494	1,584
合 計	254,374	259,295	153,473	191,140	180,483

資料：京丹後市観光振興課

◇図—10 海水浴場入込客数の推移—2（掛津・遊海水浴場、昭和59年以降）



資料：京丹後市観光振興課

（4）テーマ別の資源

海岸線のほとんどが国の自然公園に指定されており、経ヶ岬から丹後松島、屏風岩、立岩へと続く海岸景観、鳴砂の浜で国の天然記念物及び名勝に指定される琴引浜、「日本の夕陽百選」に指定される夕日ヶ浦、北近畿一のロングビーチで約8 kmも続く小天橋～浜詰海岸などが特に美しく有名です。

山地には北近畿最大級のブナ林など緑豊かな風景が広がる一方、海岸線を中心に40ヶ所もの温泉に恵まれ、温泉宿、日帰り温泉とも充実しています。

また、世界ジオパークネットワーク※への加盟を認定された「山陰海岸ジオパーク※」に市全域が含まれており、奇岩や断層など貴重で特色ある美しい地質遺産が各地に存在します。

豊かな自然がもたらす食にも恵まれ、秋には食味ランキング※で5年間で4回の特Aに輝いた丹後産コシヒカリが収穫され、冬は、日本一のブランドガニ「間人ガニ」が水

揚げされます。

歴史遺産・伝承も多く、日本海側最大級の網野銚子山古墳など数多くの遺跡があり、「古代丹後王国」が存在したとも言われる一方、静御前、細川ガラシャ、羽衣天女など、七人の姫物語「丹後七姫伝説」があります。

◇表—6 特徴的な観光資源

テーマ	観光資源の名称など	指定、登録など
自然	京丹後市全域の特徴的地質、地形 (鳥取市から京丹後市の範囲)	山陰海岸ジオパーク※世界ジオパークネットワーク 加盟認定 日本の地質百選
	八丁浜から経ヶ岬までの海岸及び一 部山間部	丹後天橋立大江山国定公園
	八丁浜から久美浜までの海岸部	山陰海岸国立公園
	国道178号 (丹後町、網野町、久美浜町)	日本風景街道※「古代ロマン街道」
	経ヶ岬灯台	日本の灯台50選、京都百景 近代化産業遺産群 続33
	立岩・屏風岩・丹後松島・経ヶ岬の海 岸景観	京都府景観資産
	丹後松島	京都百景
	立岩	京都百景
	琴引浜(鳴砂)	国指定天然記念物及び名勝、日本の白砂青松 百選、日本の渚百選、残したい日本の音風景 百選、日本最良、最大の鳴砂の浜
	琴引浜の白砂青松と鳴砂	京都府景観資産
	夕日ヶ浦の夕日	日本の夕陽百選
	小天橋	日本の水浴場88選、北近畿一のロングビーチ
	内山ブナ林	北近畿最大級の面積
	離湖	京都府内最大の淡水湖
	トウテイラン	近畿一の群生地、日本固有種
温泉	源泉数京都府一、木津温泉は京都府最古	
郷村断層	国指定天然記念物	
文化	袖志の棚田	日本の棚田百選
	久美浜湾の牡蠣の養殖景観	京都府景観資産、京都府文化的景観
	御旅市場	日本一短いアーケード
	丹後ちりめん	日本一の絹織物生産地
	琴引浜鳴き砂文化館	世界で唯一の鳴砂専門の資料館
歴史	網野銚子山古墳	日本海側最大規模の前方後円墳、国指定史跡
	赤坂今井墳墓	国内最大級の方形墳墓、国指定史跡
	方格規矩四神鏡	日本最古の紀年銘鏡
	浦嶋伝説	日本最古の浦嶋伝説の地
	羽衣伝説	日本最古の羽衣伝説の地
	月の輪田	日本の稲作発祥伝説の地
食	丹後産コシヒカリ	食味ランキング※最高評価「特A」ランク
	ばら寿司	丹後の伝統郷土料理
	間人ガニ	こだわりのブランドガニ

※テーマ別観光資源一覧は参考資料を参照

(5)主要観光施策

第1次京丹後市総合計画・後期基本計画では、観光の振興に関する「9つの施策方針」を打ち出しています。

施策方針ごとの主要な取り組み状況は次のとおりです。

① 「極上のふるさと観光づくり」の実現

事業名	実施年度	実施状況
山陰海岸ジオパーク※推進事業	20～	世界ジオパークネットワーク※への加盟を認定された「山陰海岸ジオパーク」の地質遺産を活用し、全国的、世界的な発信と保全に努めるほか、普及啓発、ガイド養成講座、教育活動として大地の学習などを実施
農林水産業連携事業	19～	猪、鹿、サワラ、かにまんなどの新たな特産品の創出や、農業体験、漁業体験など各種メニューの実施
花めぐりパンフレット作成	19	市内の四季折々の花の名所、魅力を紹介するパンフレットを作成配布

② 地域資源の保全と活用

事業名	実施年度	実施状況
山陰海岸ジオパーク推進事業	20～	世界ジオパークネットワーク※への加盟を認定された「山陰海岸ジオパーク」の地質遺産を活用し、全国的、世界的な発信と保全に努めるほか、普及啓発、ガイド養成講座、教育活動として大地の学習などを実施

③ 歴史文化の保全と活用

事業名	実施年度	実施状況
京丹後七姫パンフレット作成	18	市内に伝承されている七人の姫及びそのゆかりの地などを紹介するパンフレットを作成配布

④ 観光資源のネットワーク

事業名	実施年度	実施状況
観光フォトコンテスト	18・19	市内観光資源の再発見と入賞写真の活用による観光資源の効果的発信

⑤ 四季型滞在観光の推進

事業名	実施年度	実施状況
インバウンド※推進事業	22～	海外旅行会社を招聘した京丹後市へのツアー造成、外国人旅行者受入れのためのセミナー等を開催
観光圏※整備事業	20～	「観光圏」の国指定を受け、丹後3市2町で滞在型の観光地づくりを目指し、広域による各種関連事業を実施
体験型観光推進事業	20～	庁内、関係団体などと連携しながら四季を通じての体験メニューづくりなどの実施
観光の魅力づくり等推進事業	16～	入湯税を活用した観光インフラ※整備、観光振興に寄与するイベントなどへ補助金を交付し、年間通じた観光振興を図る
丹後あじわいの郷支援事業	16～	観光の中核施設であり、四季の自然の魅力あふれる丹後あじわいの郷の運営補助

⑥ 健康志向に対応した観光の推進

事業名	実施年度	実施状況
スポーツイベント実施	16～	歴史街道丹後100kmウルトラマラソン、ドラゴンカヌー大会、グランフォンドなど

⑦ 環境先進地としてのエコツーリズム※の推進

事業名	実施年度	実施状況
環境PR及びエコ体験推進	16～	琴引浜の鳴砂、エコエネルギー施設などを観光素材としてPRするとともに、環境学習ツアー、各種体験の実施

⑧ 情報発信の強化

事業名	実施年度	実施状況
観光パンフレット作成事業	16～	「極上のふるさと京丹後」、「ほんもの出会い旅」、「京丹後七姫伝説」、「花めぐり」、「湯けむり案内状」、「ステラ」（大河ドラマ「義経」「巧名ヶ辻」版）、「とっておき処マップ」、「オプション体験ツアー」など
ホームページ発信事業	16～	京丹後市ホームページにおける「観光情報」の充実強化（スポット、イベント紹介、パンフレット電子ブックなど）
観光サイン※整備事業	16～	市内主要道路沿い、駅に統一デザインによる観光案内看板を設置し、市のイメージ発信、観光客の利便性向上を図る

⑨ 交流の機会づくり

事業名	実施年度	実施状況
イベント実施	16～	歴史街道丹後100kmウルトラマラソン、フェスタ飛天、ドラゴンカヌー大会など
教育旅行等誘致促進事業	22～	市内体育施設、文化施設、宿泊施設等の情報を掲載したパンフレットを作成し、学校等への訪問活動を実施

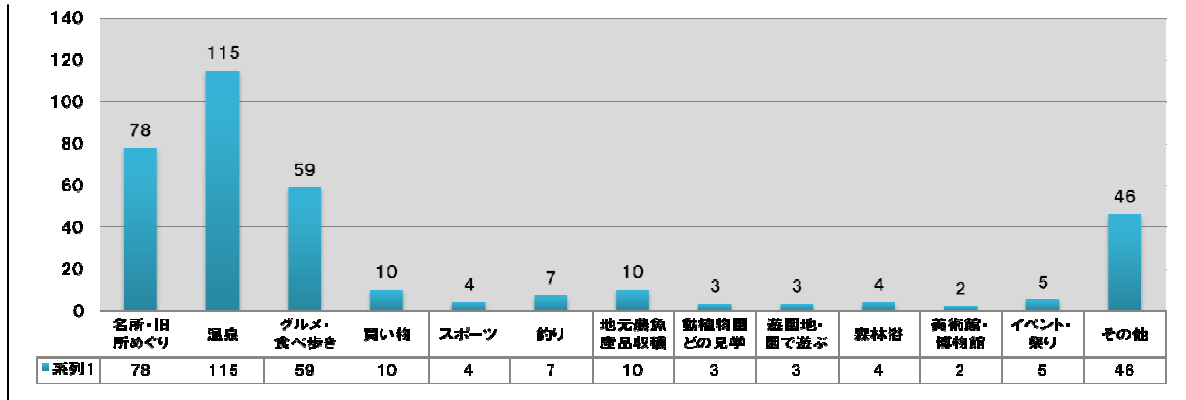
(6)観光客の評価

平成21年から22年にかけて、丹後広域観光キャンペーン協議会※が、丹後地域（舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町及び与謝野町）を訪問された旅行者等に、現状把握や具体的なニーズの調査を行った結果（その中から下記調査を参照）を基に、丹後地域観光客の評価について分析しました。

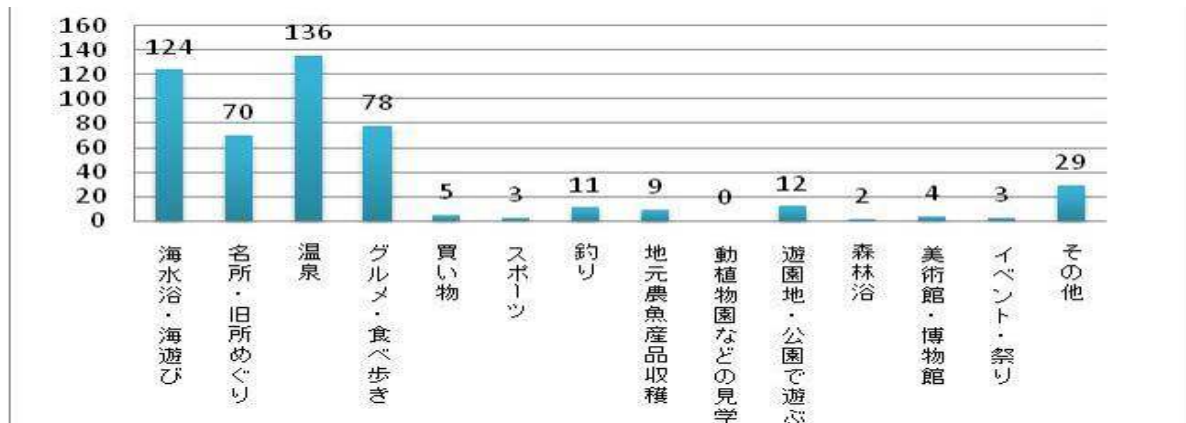
A	春季調査（以下、「春季」という）
・	実施日 平成22年5月21日～6月30日
・	調査対象 宿泊を伴う訪問者
・	サンプル 203組
B	夏季調査（以下、「夏季」という）
・	実施日 平成21年8月9日～8月31日
・	調査対象 宿泊を伴う訪問者
・	サンプル 281組
C	秋季調査（以下、「秋季」という）
・	実施日 平成21年10月19日～11月10日
・	調査対象 宿泊を伴う訪問者
・	サンプル 174組
D	冬季調査（以下、「冬季」という）
・	実施日 平成21年1月5日～2月27日
・	調査対象 宿泊を伴う訪問者
・	サンプル 293組

◇図11-① 丹後地域への旅行の目的

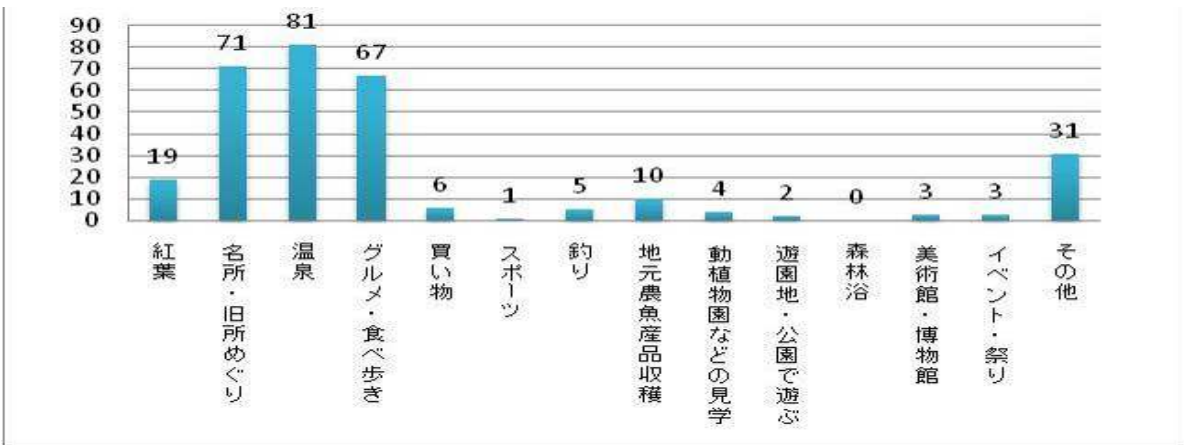
○ 春季：温泉が約57%、名所・旧所めぐりが約39%を占めています。



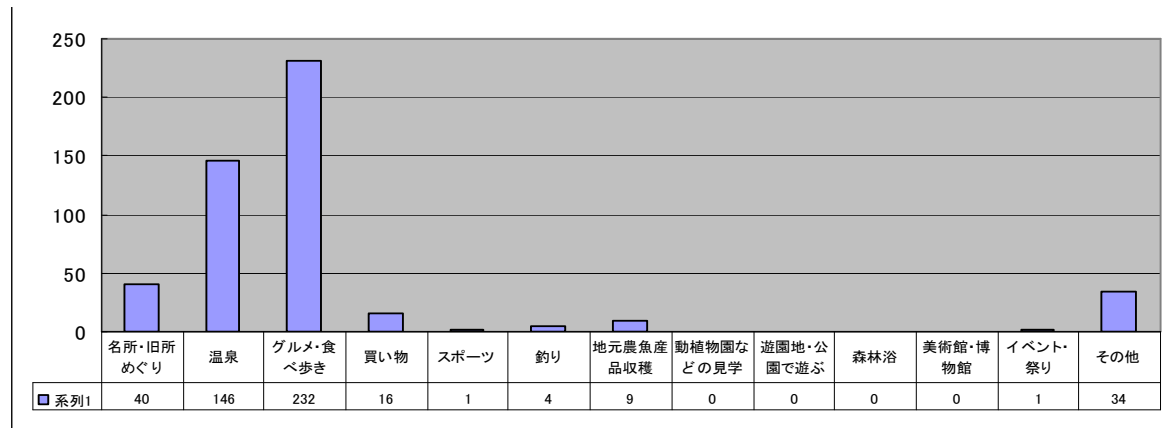
○ 夏季：温泉が28%、次いで海水浴が25%を占めています。



○ 秋季：温泉が26%、次いで名所・旧跡めぐりが23%を占めています。



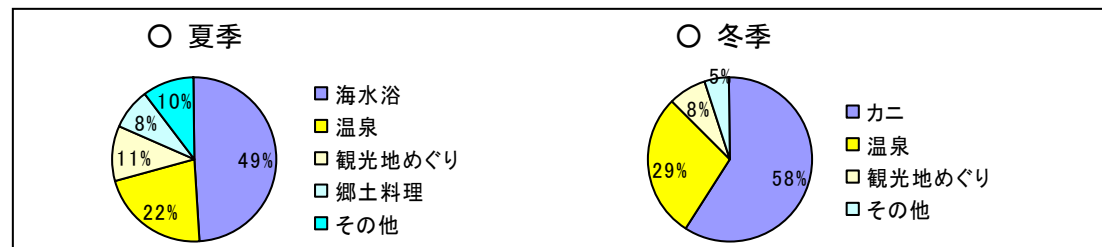
○ 冬季：グルメ・食べ歩きが48%、温泉が30%を占めています。



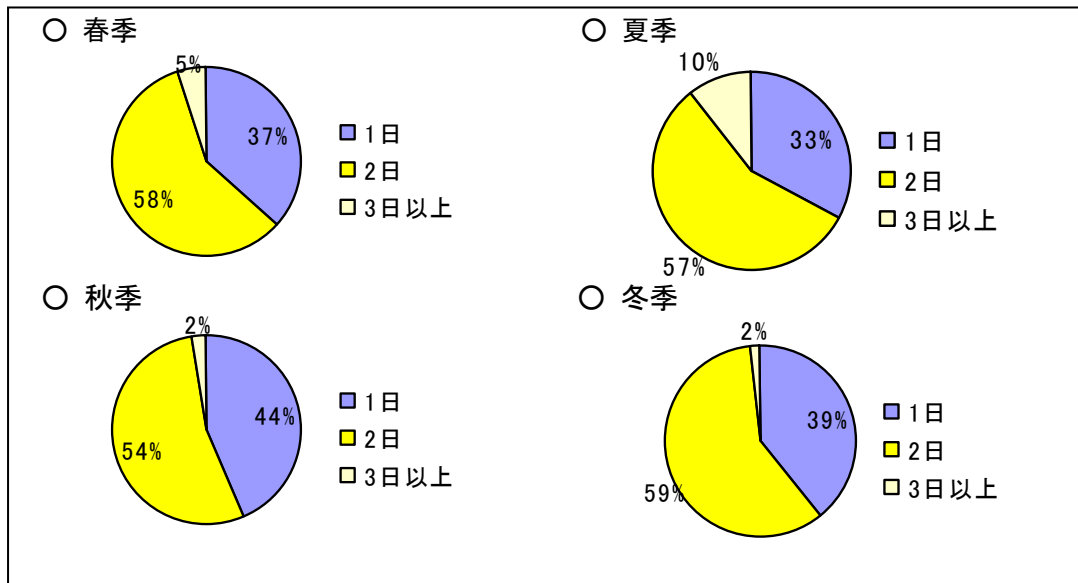
夏季は、海水浴以外の目的も半数を占めますが、冬季はカニと温泉が大半を占めており、他の要素は非常に少ないことがわかります。

参考：平成19年調査結果 京丹後市への旅行の目的

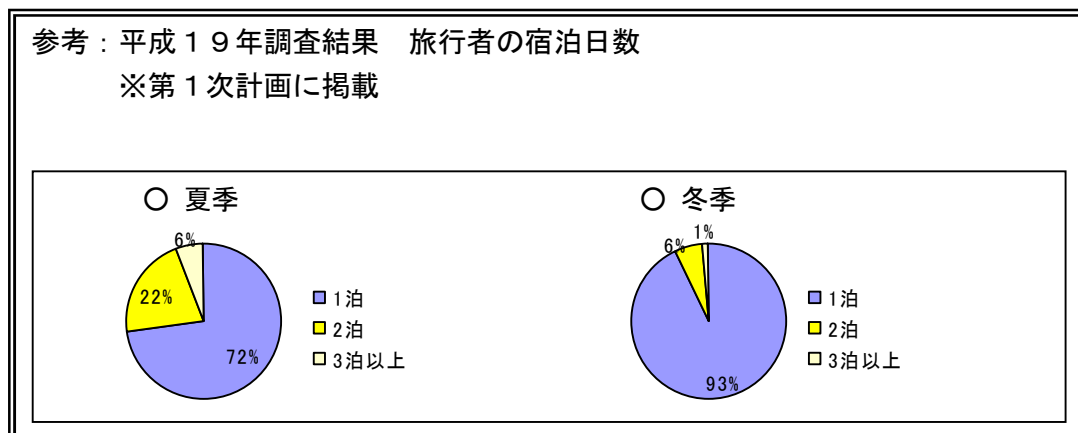
※第1次計画に掲載



◇図11-② 旅行者の滞在日数

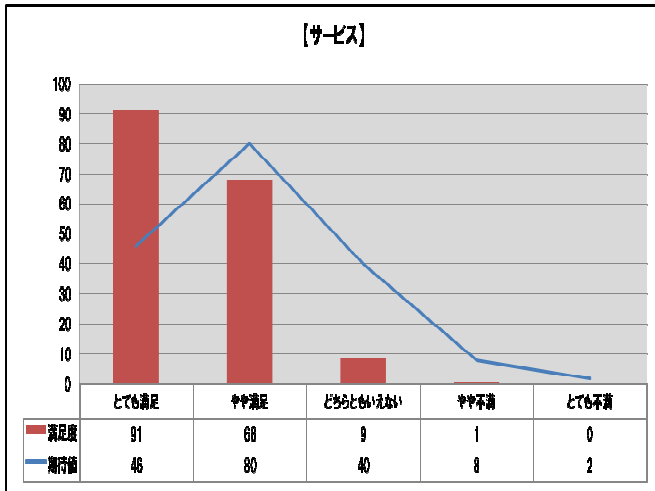


「今回の旅行での丹後での滞在日数」の問いに対しては、「2日」が多く、「1泊2日」の旅行者が多くを占めていることがわかります。

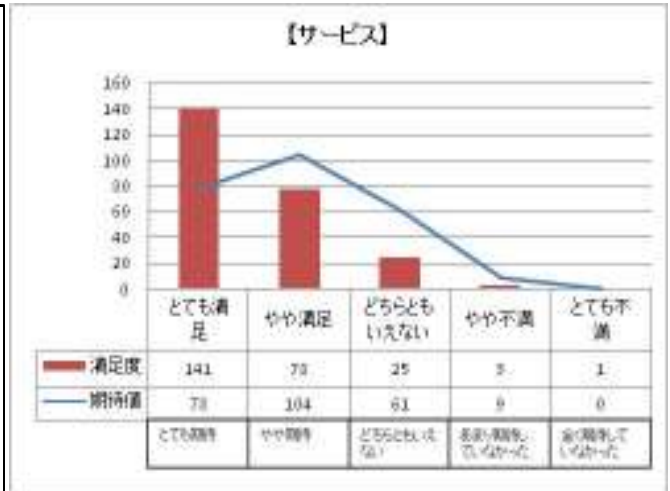


◇図11-③ サービスへの期待度と満足度

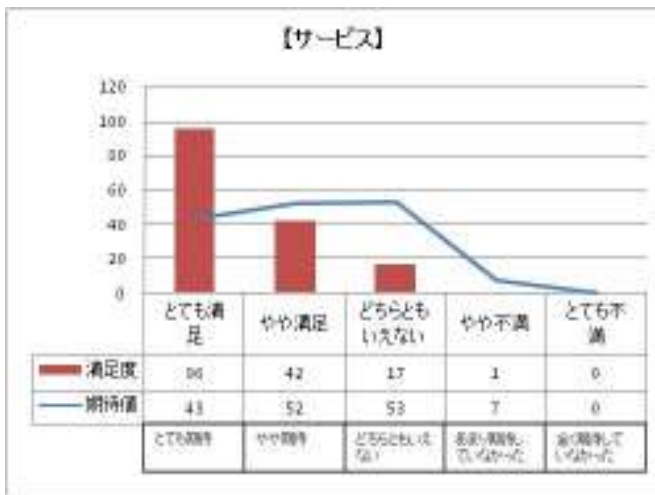
○ 春季



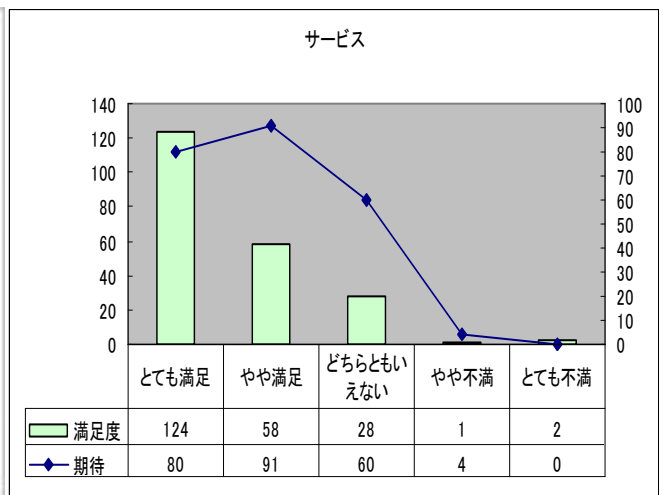
○ 夏季



○ 秋季



○ 冬季

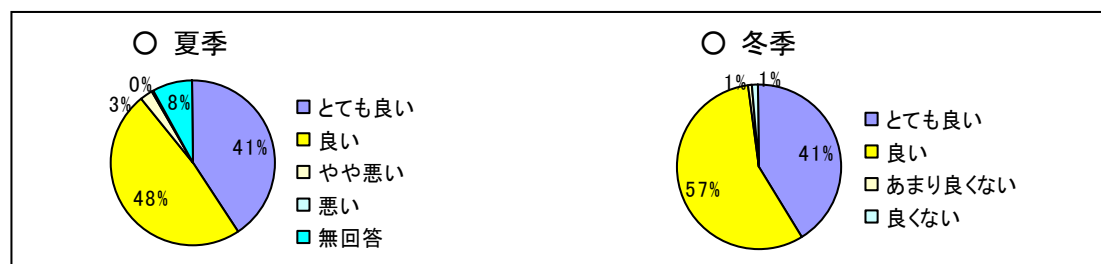


サービスについて、「とても満足」、「やや満足」をあわせると88%以上であり、四季を通じて観光客の満足度が高いことがわかります。

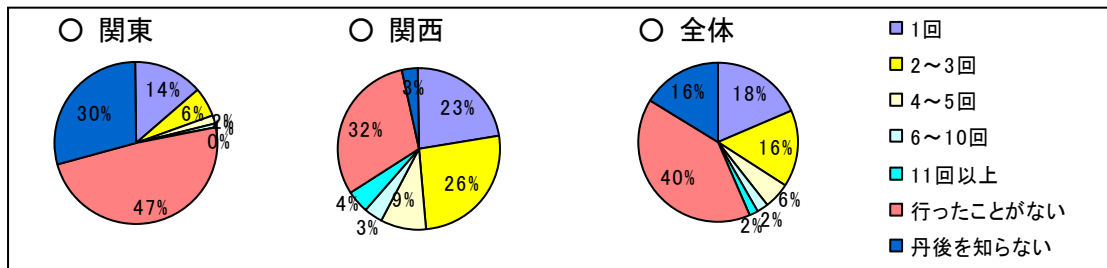
また、料理について、「とても満足」、「やや満足」が春季は91%、夏季は90%、秋季は88%、冬季は92%と非常に高く、食事への満足度も非常に高いことがわかります。

参考：平成19年調査結果 宿のサービス

※第1次計画に掲載



◇図11-④ リピート※割合（インターネットリサーチ※による）



「これまで京丹後市に来たことがありますか」の問いに対し、関西では65%の方が「来たことがある」と答え、2回以上のリピーター※の割合も42%と高く、関西の住民にとって、丹後地域は身近な旅行先として認知されていることが伺えます。一方、関東においては、「丹後を知らない」が30%、「行ったことがない」が47%を占めており、関東での認知度の低さが伺えます。

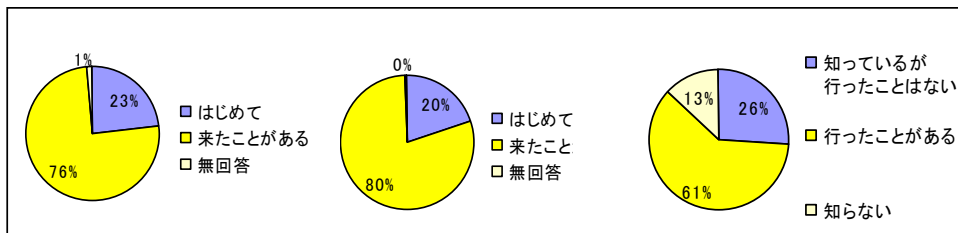
参考：平成19年調査結果 宿の満足度

※第1次計画に掲載

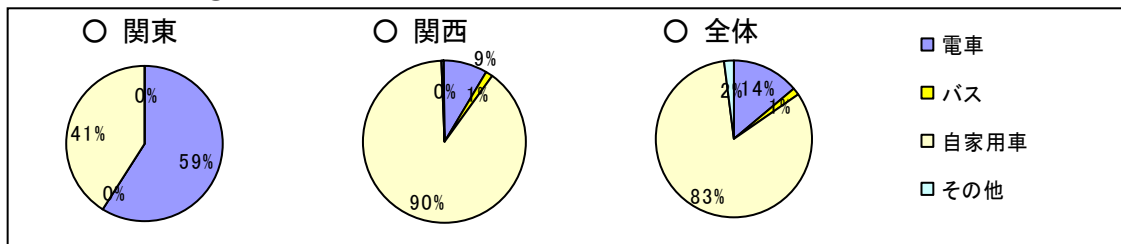
○夏季：リピート割合

○冬季：リピート割合

○都市部：訪問経験



◇図11-⑤ アクセス手段



関西からは「自家用車」が90%と圧倒的に多く、「鉄道」は9%と少数です。関東からは「電車」が約6割、「自家用車」が約4割であり、関東からのアクセスは電車等の公共交通が不可欠であることが伺えます。バスの利用は、関西、関東ともさらに少数となっています。

全体としては、第1次計画に掲載された平成19年の調査結果と同様の傾向が見られ、「自家用車」でのアクセスが大半を占める状況が継続していることが伺えます。

※周遊パターン

「丹後地域内で訪れる観光地は」の問いに対しては、「天橋立」、「夕日ヶ浦」、「傘松公園」、「琴引浜」の割合が高くなっています。

「他に訪れる観光地は」の問いに対しては、「若狭湾周辺」、「城崎温泉」、「出石」の割合が高く、市内で宿泊しても、滞在時間は短く、周辺の観光地へ移動する傾向が現れています。

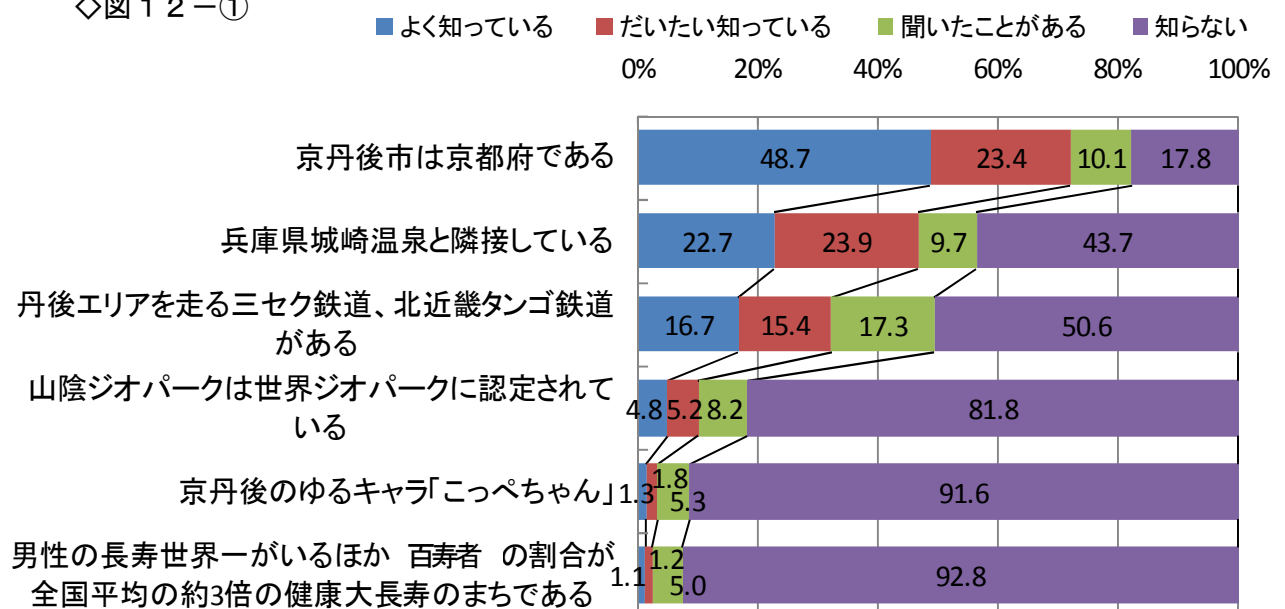
(7)観光客がもつ観光資源への興味(京丹後市ギャップ調査)

京丹後市ギャップ調査とは、京丹後市への観光客が何を経験し、どんな観光資源に興味を持っているか。またその満足度合いなどを調べたものです。

「対象者」	
調査期間	: 平成 24 年 9 月
調査元	: 株式会社リクルート ジャらんリサーチセンター
調査対象	: 1,050 人
抽出条件	: 関西圏（京都府・大阪府・兵庫県・滋賀県）70% 中京圏（愛知県・三重県）30%
対象条件	: 20 歳以上

質問 京丹後市の以下のことをご存知ですか？

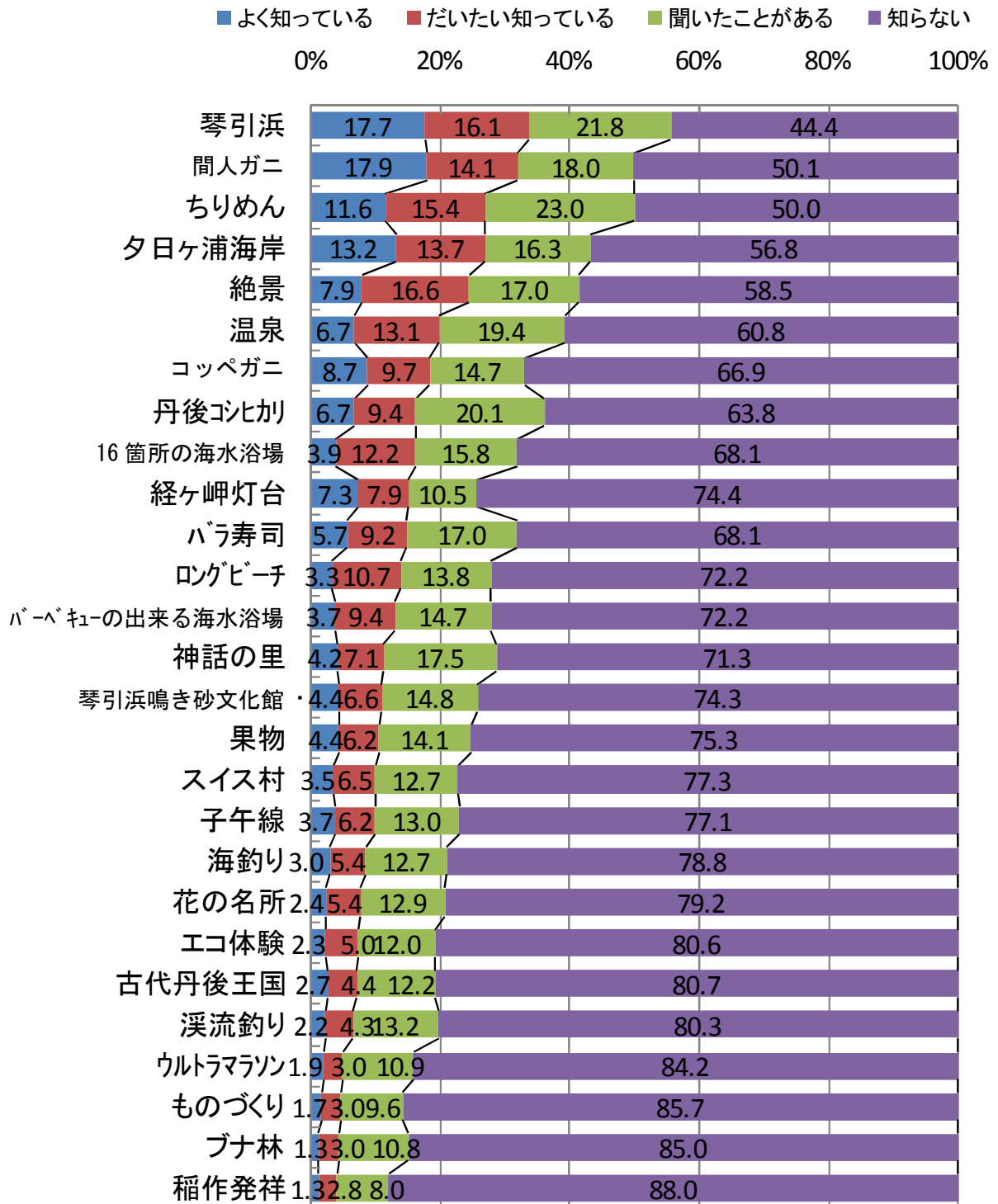
◇ 図 12-①



- ・城崎温泉と隣接しているという情報は関西方面で認知度が高く、愛知県ではまだ少ない。
- ・KTR に関しては関西以外では認知度が低く、年代別に見てみると若年層が低い。
- ・山陰ジオパークの世界認定に関しては、関西方面で少々認知度があるが弱い。
- ・ゆるキャラ「こっぺちゃん」や「長寿のまち」のイメージは今のところかなり少ない。

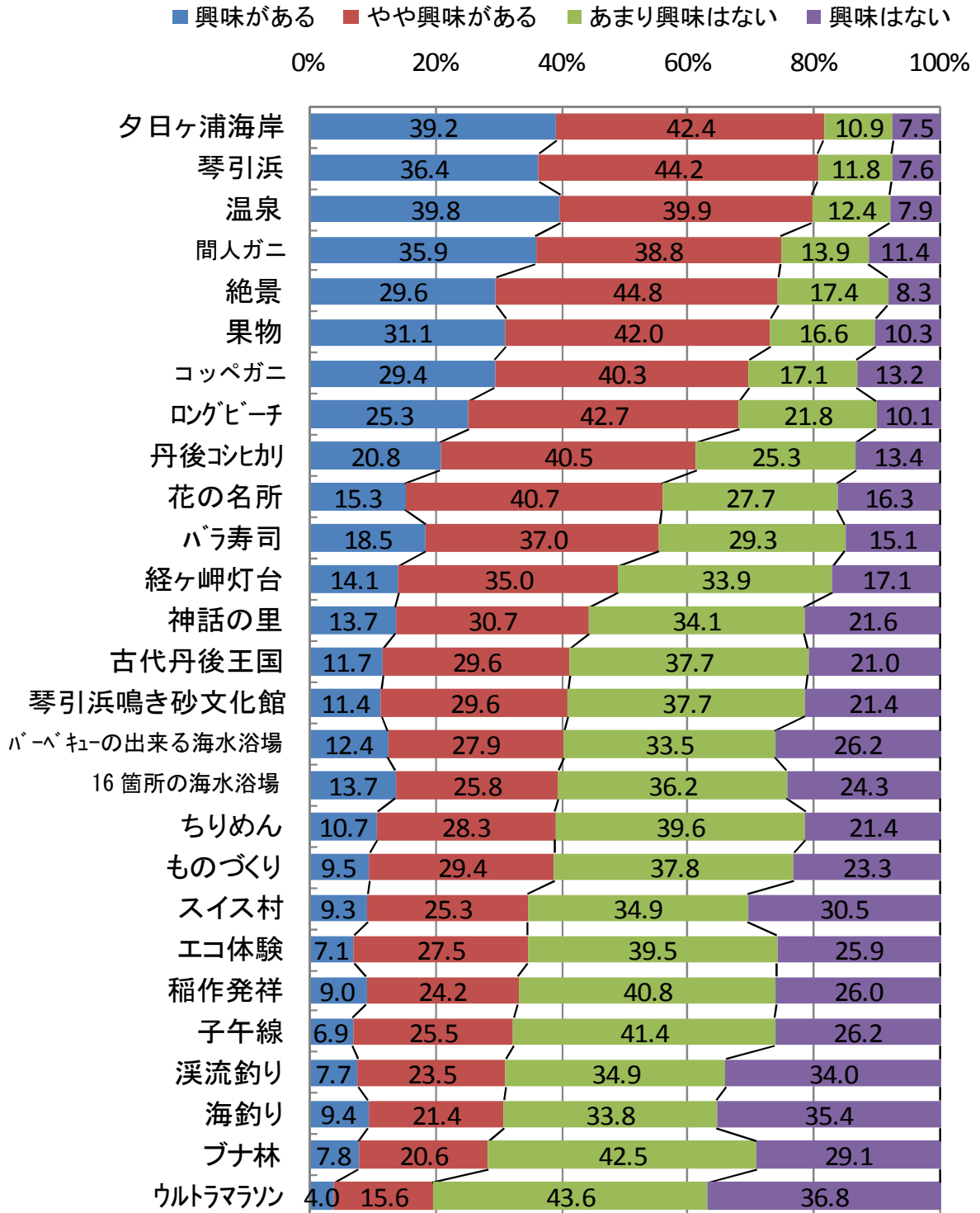
質問 京丹後市の観光資源について以下のことをご存知ですか？

◇図12-②



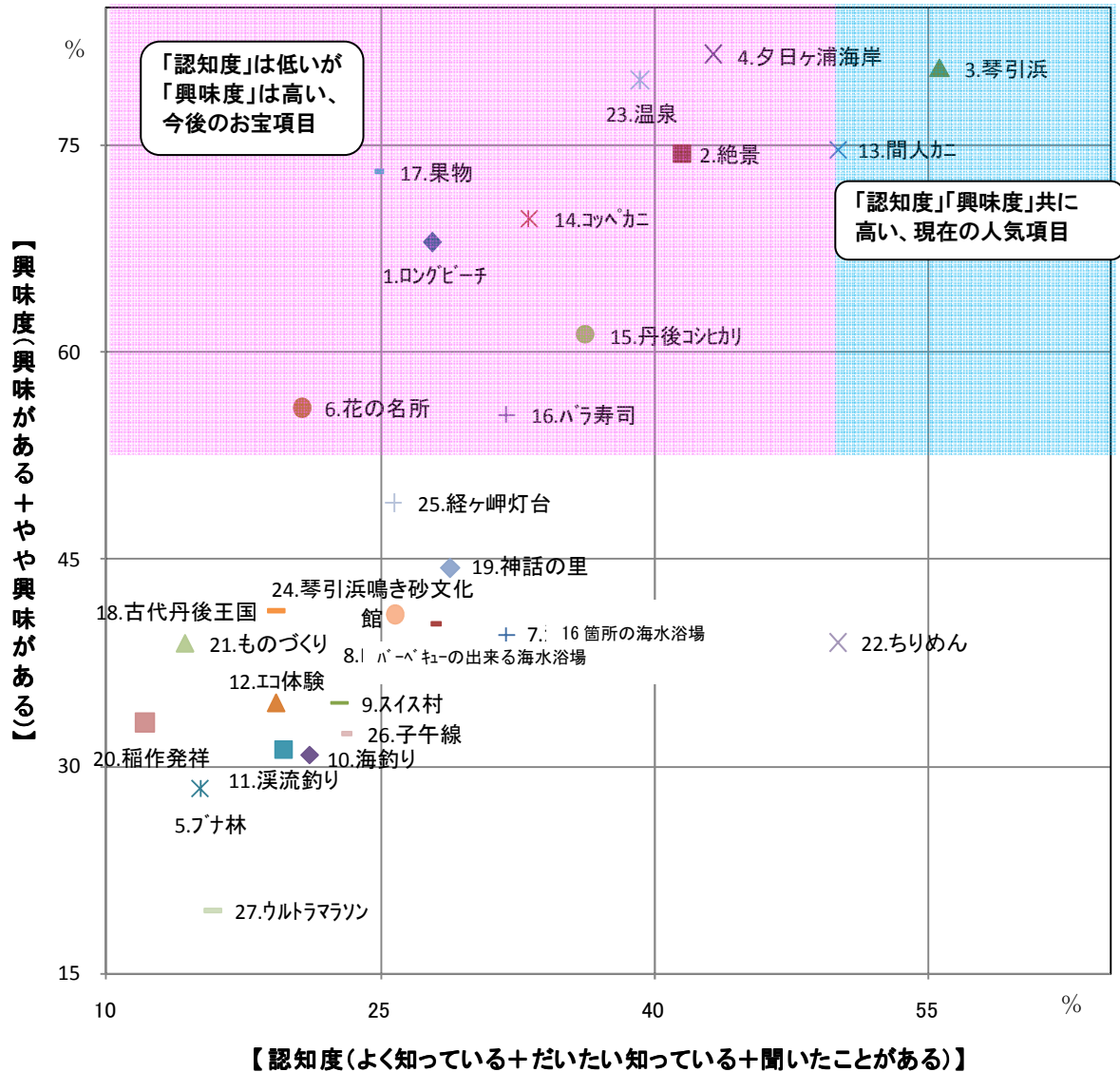
質問 京丹後市の観光資源について興味がありますか？

◇図 1 2 - ③



◇図12-④【京丹後市の観光資源に関する認知度×興味度】

※各観光資源に対する認知度と興味度の交差する点を、図中の「●」「■」「▲」等の記号で記しています。



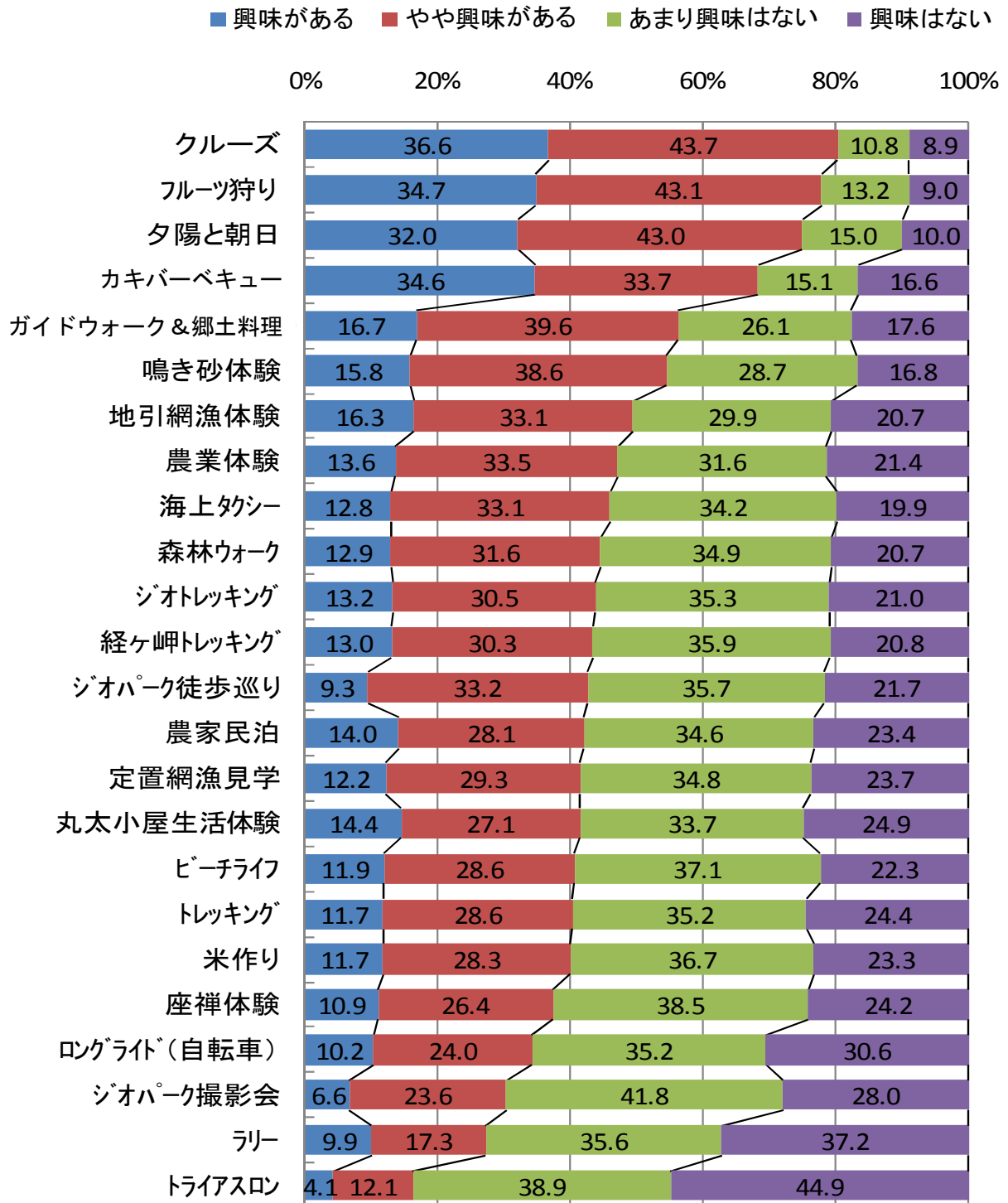
認知度、興味度ともに高い「琴引浜」、「間人ガニ」は、京丹後市を代表する観光コンテンツ※として観光客に評価されています。

認知度はやや低いものの、興味度が高い「夕日ヶ浦海岸」、「温泉」、「絶景」、「果物」、「コッペガニ」、「小天橋～浜詰海岸のロングビーチ」、「丹後コシヒカリ」、「花の名所」、「バラ寿司」は、今後有望な観光コンテンツ※として、認知度向上に向けた情報発信を行い、市内滞在時間の延長へとつなぐ取り組みが必要です。

質問 京丹後市で、もし以下のような企画やイベントがあれば興味がありますか？

ジオパーク撮影会	地元のカメラマンが穴場を伝授 世界ジオパーク(絶景)スポット撮影会
ジオパーク徒歩巡り	伝説や歴史、文化、地質までガイド付き世界ジオパークスポット徒歩巡り
鳴砂体験	名人がレクチャー「キュッキュ」と鳴く不思議な 鳴砂の浜体験ウォーク
クルーズ	イタリアの「青の洞窟のような」神秘の景観を遊漁船で散策クルーズ
カキバーベキュー	冬季限定:無人島にてBBQ♪肉厚のカキをお腹いっぱいクルーズ
海上夕遊	浦島伝説や静御前の伝説 を聞く海上タクシードライブ
トレッキング	溪流でのアマゴ釣り体験付き、大自然のプロと歩くトレッキングツアー
森林ウォーク	四季の里山をハイキング、大自然に帰ろう！丹後森林ウォーク
ジオトレッキング	ゴールは琴引の塩にぎりや名水のお茶を海辺で食べる世界ジオトレッキング
経ヶ岬トレッキング	絶景の棚田を歩き「日本の灯台50選」を目指そう経ヶ岬トレッキング
地引網漁体験	ぐんぐん引っ張れ！砂浜から体験、捕った魚はお土産で！地引網漁体験
定置網漁見学	漁船に乗って大海原へ「気分は漁師」定置網漁見学ツアー
座禅体験	心と身体の リフレッシュ、癒しの座禅体験(住職の人生相談付き)
フルーツ狩り	桃・ぶどう・梨、自然の甘さがたっぷりもぎたてフルーツ狩り体験
農家民泊	畑や田んぼで汗を流し、自然のごちそうを食べよう！里山で農家民泊
丸太小屋生活体験	かまど、囲炉裏、五右衛門風呂！電気が全くない丸太小屋生活体験
米作り	「とも爺」のこだわり米作り大作戦！美味しいごはんの秘密
農業体験	「農家ごはん」のランチ付き、野菜・米・竹細工や竹炭など農業体験
ガイドウォーク&郷土料理	京都百景に選ばれた「丹後松島」ガイドウォーク&お楽しみ郷土料理
夕陽と朝日	夕陽と朝日を絶景で鑑賞「心が洗われる」時間限定ツアー
ビーチライフ	北近畿一のロングビーチで、各種ビーチスポーツやビーチレクリエーションなどの健康づくりビーチライフ
トライアスロン	世界ジオパークを満喫！トライアスロン
ラリー	高原を疾走する全日本ラリー選手権
ロングライド(自転車)	美しい海岸線を駆け抜けるロングライド(自転車)

◇図 1 2 -⑤ 【京丹後市の企画・イベントに関する興味度】



企画やイベントへの問いに対しては、「クルーズ」、「フルーツ狩り」、「夕陽と朝日」、「カキバーベキュー」、「ガイドウォーク&郷土料理」、「鳴き砂体験」について、5割以上が「興味がある」、「やや興味がある」と答えました。

3 観光振興の課題整理

第1次計画においては、観光振興の総括的な課題を7つに整理したうえで、コンセプトに『極上のふるさと観光づくり～全市域のあらゆる資源を観光に結びつける京丹後まるごと観光～』を掲げ、5つの基本方針のもと、133のアクションプラン※をメニュー化し、事業を推進してきました。

【7つの総括的な課題】

- ① 観光による生活基盤の継承発展が早急に必要です
- ② 地域の資源、四季折々の魅力が十分に活かされていません
- ③ もてなしの文化を発揮する必要があります
- ④ 外国人旅行客を誘致し、国際観光を推進する必要があります
- ⑤ 地域の魅力・情報を効果的に発信することが重要です
- ⑥ アクセスの改善と地域内交通を充実させる必要があります
- ⑦ 地域や業界、市民が一体となって取り組む体制が必要です

【5つの基本方針】

- ① かけがえのないふるさとを守り育てる観光を目指します
- ② 地域資源を活かして未来を拓くほんまもん観光・体験を提供します
- ③ 京丹後人気質をもったもてなし観光と国際観光に取り組みます
- ④ 徹底したマーケティング※手法で戦略的に情報を発信します
- ⑤ 地域が総ぐるみで観光に取り組みます

第2次計画の策定にあたっては、まず基本方針の実施状況を整理し、それを踏まえて総括的な課題について再評価を行い、第2次計画の策定の方向について取りまとめました。

(1)基本方針ごとの実施状況

<基本方針1> かけがえのないふるさとを守り育てる観光を目指します

主な実施事業	<p>テーマ①歴史遺産、地域の「宝」を活かすために、丹後建国1300年記念シンポジウムの開催や、網野銚子山古墳の整備基本計画の策定を行うなど、地域の宝の整備と発信を行いました。</p> <p>テーマ②ふるさとの物語を伝え感動につなげるため、丹後七姫めぐりマップの作成、大河ドラマの誘致活動、「京丹後市の伝承・方言の刊行」などを行いました。</p> <p>テーマ③ジオパーク構想を推進し、豊かな自然を守り活かすため、ガイド養成、広報啓発活動、サインや拠点施設の整備、大地の学習フィールドワーク※などを実施し、世界ジオパークネットワークへの加盟認定に向けて取り組みました。</p>
--------	--

<p>成果と課題</p>	<p>平成22年10月に山陰海岸ジオパーク※が世界ジオパークネットワーク※への加盟を認定されるとともに、丹後建国1300年に向けての歴史を活かす取り組みなどを進めてきました。</p> <p>ジオパークや歴史・伝説といった地域の宝について、その魅力を十分に周知・PRできていないこともあり、観光に活かそうという機運がなかなか盛り上がらない、地域の魅力を語るができないといった課題があります。</p>
<p>今後の方向</p>	<p>市観光立市推進条例で規定する「住んでよし、訪れてよし」の魅力ある観光地を目指すためには、地域固有の文化、伝統を継承し、地域に誇りを持って、その魅力を多くの人に語り伝えていくことが大変重要です。そのためにも、宝の整備やジオパーク活動を一層推進するとともに、丹後建国1300年を契機として、かけがえのない日本のふるさとでもある私たちのふるさと丹後を守り育てることが必要です。</p>

<基本方針2> 地域資源を活かして未来を拓くほんまもん観光・体験を提供します

<p>主な実施状況</p>	<p>テーマ①海を活かした観光を推進するため、漁業者等と連携を進め、漁船等を活用した遊覧船の運航が3地域で始まり、海の魅力やジオパークの魅力をPRすることができ、新たな観光素材となりました。</p> <p>テーマ②農を活かした観光を推進するため、農業者等と連携を進め、新たに5軒の農家漁家民宿が開業するなど、都市部の大学生等に農業体験メニューの提供が始まりました。</p> <p>テーマ③ものづくり観光を推進するため、丹後ものづくりパークにおける見学やちりめん工場や工房での見学の受入れが行われていますが、利用者は少ない状況にあります。</p> <p>テーマ④まち歩き観光を推進するため、地域におけるまち歩きマップの作成やガイド養成講座の実施、ジオトレッキング※の実施などが新たに行われました。</p> <p>テーマ⑤京丹後ブランドとなる土産物づくりにおいては、サワラの活用やご当地バーガーの販売が行われましたが、ブランドとなる土産物づくりまでには至りませんでした。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>遊覧船の運航、農家・漁家民宿の開業、ジオトレッキングの実施など、新たな観光素材を提供することができました。</p> <p>さらに、地域資源を活かした魅力ある観光商品を造成していくことと、多くの観光客に利用してもらうための、本格的なサービスをいかに提供していくのが課題であります。</p>

今後の方向	<p>ふるさとの魅力を味わってもらい、もう一度来たい感動の旅を提供するために、地域の魅力ある歴史、文化、海、農、グルメ、温泉、産業などを、ゆっくりと心温まる案内で満喫してもらう取り組みを一層進める必要があります。四季型・滞在型の観光を進めるためにも、さと歩き※や食の魅力、健康長寿のまちであることや、スポーツを活用した観光振興を図ることが大切です。</p>
-------	--

＜基本方針３＞ 京丹後人気質をもったもてなし観光と国際観光に取り組みます

主な実施状況	<p>テーマ①味の極上地づくりについては、サワラ、沖ギス、また養殖が開始されたクロアワビなど地元食材を旅館で味わう旅行商品をKTR企画プランとして販売するなど、観光業と他業種の連携を進めました。</p> <p>テーマ②ゆっくり滞在できる宿泊魅力の向上について、京都府丹後観光圏事業と連携し、丹後一円の特色ある景観、体験、食を楽しみながらゆったりと巡る、連泊滞在コースの開発と発信などに取り組みました。</p> <p>テーマ③ホスピタリティ※の向上に関しては、お茶のみ処、トイレ処として宿を提供する取り組みや、おもてなしセミナーを開催するなど、主に観光業におけるおもてなしの向上に努めました。</p> <p>テーマ④インバウンド※の推進に関しては、市観光協会によるアセアン観光連盟国際会議の誘致・開催や台湾高雄観光協会との友好提携などに取り組み、台湾からツアーが始まっています。</p> <p>テーマ⑤修学旅行の魅力づくりと誘致について、地引網、防潮保安林の整備体験など地域の特色を活かした修学旅行の受入れを実施しています。</p> <p>テーマ⑥快適に移動できる交通環境・サイン※の整備は、上限200円バスの延伸と日帰り温泉への乗り入れなどKTRと観光施設のネットワークを強化、またデザインを統一した観光サインの整備を引き続き行っています。</p> <p>テーマ⑦環境に優しい観光活動の推進については、KTRフラワーオーナー制度による駅舎への花壇整備、グリーンニューディール基金を活用した海岸清掃活動などを推進しました。</p>
成果と課題	<p>それぞれのテーマごとの取り組みは着実にすすめられ、特に宿のサービスについては、すでに高い評価を得ています。取り組みを通じて、きめ細やかなおもてなしが市民全体のものとなり、国内外を問わず観光客をあたたく受け入れる必要があります。</p>

今後の方向	京丹後らしい温かいもてなしの観光地づくりを進めるため、観光周遊のためのインフラ面として、2次交通や案内看板の整備促進するとともに、ひとりでも多くの市民がジオパーク※をはじめとした本市の魅力を認識し、自信を持って観光客を受け入れ、もてなすことが出来るようテーマに沿った取り組みの継続が必要です。また、近隣諸国との国際交流を進めるなかで、観光地としてインバウンド※の必要性について改めて認識し、受入体制を整備する必要があります。
-------	--

<基本方針4> 徹底したマーケティング※手法で戦略的に情報を発信します

主な実施状況	<p>テーマ①観光マーケットの感度を向上させるために、丹後観光旅行調査を実施するなど、観光客ニーズの把握に努めました。</p> <p>テーマ②訴求力のあるイメージづくりについては、第1次計画のコンセプト「極上のふるさと」を総合パンフレットのタイトルに活用、「きて一な京丹後」をキャッチコピー※として使用しています。</p> <p>テーマ③ターゲット戦略については、関東圏をターゲットに、著名人をコメンテーターとした情報発信PR事業を丹キャンで実施しました。</p> <p>テーマ④効果的な情報発信については、丹後七姫である細川ガラシャを主題としたNHK大河ドラマ誘致活動の展開、市内体育施設を活用した合宿誘致活動などを進めてきました。</p> <p>テーマ⑤情報発信ツールの選択と集中に関しては、パンフレットの整備や京丹後市総合パンフレット「極上のふるさと京丹後」の作成、市ホームページの3ヶ国語(英語、中国語、韓国語)対応などITを活用した情報発信を行いました。</p>
成果と課題	<p>キャッチコピーを活用したパンフレットの作成や、ITを活用した情報発信、また情報の多言語化などに取り組んできたところですが、ターゲットとする客層に必要な確かな情報発信が出来るには至っていません。</p>
今後の方向	<p>観光客のニーズや動向を的確に把握するとともに、高速道路網の伸展などの交通インフラ整備などを見据えた集客のターゲットエリア、集客のターゲットパーソンを定め、ターゲットごとに本市の豊富な地域資源を組み合わせた魅力的な情報を提供し、認知度と興味度を高め誘客促進につなぐ必要があります。</p>

<基本方針5> 地域が総ぐるみで観光に取り組みます

<p>主な実施状況</p>	<p>テーマ①総合的な観光推進組織づくりについては、京丹後市の観光資源をコーディネートできる人材の採用、京都府観光連盟をはじめとする広域組織との連携に取り組みました。</p> <p>テーマ②観光活動の原動力となる人材の育成に関して、「ジオコーディネートガイドセミナー」や「おもてなしセミナー」を開催し、人材育成に努めました。</p> <p>テーマ③観光立市推進条例との連携については、市民、観光関係者対象とした「観光まちづくりフォーラム」などを開催しました。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>平成20年4月に発足した京丹後市観光協会を中心として行政、関係団体、観光事業者の連携を図ってきましたが、地域が総ぐるみで観光に取り組むまでには至っていません。市内の観光施設、観光事業者の連携をコーディネートできる人材の育成も含め、観光協会を中心とした観光推進体制が必要です。</p>
<p>今後の方向</p>	<p>観光入込客の減少をくい止め、増加傾向に持っていくためには、市、観光協会等観光関連団体、観光事業者、市民が一体となって取り組む体制が必要です。観光に対する課題や目標を共有し、それぞれの役割を果たしながら、観光商品開発、誘客宣伝、もてなしの向上など一体となった早急な取り組みが必要となっています。</p>

◇表7 市観光振興課の事業実施概要

(単位：千円)

項目	内容	H 2 1	H 2 2	H 2 3
観光協会等支援事業	観光協会活動補助	26,778	31,559	25,202
	パンフレット等作成	5,811	9,387	3,297
	インバウンド※事業	0	0	1,623
観光宣伝活動事業	宣伝活動	1,547	1,180	1,058
	観光団体負担金	8,237	8,134	8,279
	インバウンド推進事業	0	1,918	1,266
観光のまちづくり推進事業	観光振興計画推進	580	142	514
	体験観光推進事業等	4,575	1,579	7,070
	ボンネットバス運行	706	875	0
	観光業等活性化補助	1,000	1,200	1,900
	観光のまちづくり推進事業補助	5,000	0	0
	教育旅行等誘致促進事業	0	1,191	114
観光の魅力づくり推進事業	観光インフラ基金を活用した補助	39,823	23,084	18,793
イベント実施	ウルトラ、ドラゴン、飛天等	6,905	11,345	14,421
ジオパーク推進事業	ガイド養成、普及啓発	400	5,063	5,886
	協議会負担金	1,010	2,657	2,657
	ジオサイト※サイン※整備	1,667	1,192	0
観光施設整備事業	トイレ、シャワー等整備	68,224	1,105	1,260
	無電柱化事業	8,400	0	3,570
	観光案内サイン整備	580	716	1,271
あじわいの郷支援	運営補助、土地借上料等	33,007	33,004	30,648
	臨時駐車場撤去整地費	0	20,370	0
水難対策事業	海水浴場連絡員配置等	11,217	12,243	11,552
海浜等施設管理事業	海水浴場等海浜施設管理	14,250	14,130	12,680
	大雨災害ごみ撤去	9,103	0	6,099
自然公園事業	自然公園施設管理	14,664	12,347	10,914
指定管理運営事業	運営事業	112,964	113,892	101,632
	大規模修繕	73,989	51,213	19,595
観光等施設一般	その他観光施設管理修繕	15,344	31,799	16,431
合計		465,781	391,325	307,732

※平成21年度及び22年度においては、それぞれ135,848千円、53,659千円の臨時対策交付金事業を実施。

(2) 総括的な課題の再評価

前項の第1次計画の基本方針の実施状況を踏まえ、総括的な課題について再評価を行いました。また、第1次計画期間中の観光入込客数及び宿泊客数が減少傾向にあることから、この状況を改めて課題として加えています。

① 観光による生活基盤の継承発展が早急に必要です

京丹後市の歴史に根ざしたふるさとの生活基盤が弱体化しつつあり、このままでは文化から自然にわたる地域の基盤が失われることが危惧されます。この現状を解決するため、観光により早急に地域生活の継承発展に取り組む必要があります。

【課題に関する現状の分析と再評価】

- ・基本方針1の実施状況にみられるとおり、ジオパーク※活動や、自分の住む地域への誇りや地域の魅力についての認識が深まらないのが現状です。丹後建国1300年を契機に地域の魅力を再認識するとともに、観光資源となりうる地域の文化、伝統を継承していくことが必要です。

② 地域の資源、四季折々の魅力が十分に活かされていません

京丹後市には、豊富な海産資源に恵まれた日本海があり、これらと一体となった漁村風景、自然海岸が今も残されています。また、長い歴史に培われた農林業、ちりめん産業は先端産業にも受け継がれ、ものづくり文化として息づいています。さらに、世界ジオパークネットワーク※への加盟を認定された「山陰海岸ジオパーク」は、鳥取県、兵庫県とも連携しつつ、保全活動はもちろん本格的な観光利用に向け、地域が一体となって積極的な展開が必要です。このような地域固有の自然から文化、産業までのあらゆる資源を活かしたほんまもんの観光価値を追及しなければなりません。

【課題に関する現状の分析と再評価】

- ・基本方針2の実施状況にみられるとおり、京丹後市のジオパークの美しい自然や地場産業など、地域の魅力的な資源を活かした体験や見学メニューが提供されつつありますが、予約の必要なものが多く、観光客が参加しやすい状況にないのが現状です。体験の魅力に、ジオパークの恵みでもある豊富な温泉や地産地消の食の魅力をあわせて提供することで、さらに魅力を高めていくことが必要です。また、京丹後市の美しい砂浜海岸をはじめとした自然環境の保全をさらに進め、それを活かしたスポーツツーリズム※などでの誘客を検討する必要があります。

③もてなしの文化を発揮する必要があります

京丹後市の人には、人々をあたたくもてなす気質がありますが、観光の場面ではまだまだ十分に発揮されていません。京丹後市に訪れる人々の気持ちを大切に、普段の気持ちよいあいさつから接遇、道の案内など様々な点で改善の余地があり、これらに積極的に取り組むことが求められています。

【課題に関する現状の分析と再評価】

- ・基本方針3の実施状況にあるとおり、京丹後市の魅力、観光地での案内など市民が十分には説明できず、観光客に対するもてなしの気持ちの少ないのが現状です。コミュニティビジネス※による地域協働など、地域ぐるみの観光振興をすすめ、もてなしの心を醸成する必要があります。

④外国人旅行客を誘致し、国際観光を推進する必要があります

京丹後市の豊富な観光資源、それを活かした体験やエコの取り組みは、世界へ通用する可能性を秘めています。外国人旅行客は少ないのが現状です。今後は、国の政策と連動したインバウンド※施策やジオパーク※の活用により、外国人旅行客の増加を図り、国際観光・国際交流を推進する必要があります。

【課題に関する現状の分析と再評価】

- ・基本方針3の実施状況にあるとおり、外国人観光客を受け入れる必要性の認識が、観光業者においても高くない現状であり、観光協会と行政によるリーダーシップで意識改革と受入体制の整備を進める必要があります。
- ・ジオパークは国際的に共有される価値をもっており、これを活かした国際交流に向けた受け入れ態勢の整備と、情報提供が必要です。

⑤地域の魅力・情報を効果的に発信することが重要です

魅力ある京丹後市の資源が、他地域の人々に十分に伝わっていません。普段の当たり前のものであっても、他地域の人々には希少価値として評価されるものが質的、量的に多くあり、これらを限られた予算の中で効果的に活用していくことが求められています。個々の魅力ではなく市域全体で情報を共有し、展開していくことが必要です。

【課題に関する現状の分析と再評価】

- ・基本方針4の実施状況にあるとおり、広域組織や団体によるものを含めると、パンフレットやホームページは多種多様にあり、それぞれ観光情報は整理・整備されつつあります。今後は、すべてのターゲットに向け、同一の観光情報を提供するだけでなく、ターゲットの嗜好に合った情報を精査し、必要とされる情報発信を展開する必要があります。

⑥アクセスの改善と地域内交通を充実させる必要があります

今後、首都圏からの誘客を推進するためには、飛行機など首都圏からのアクセス環境を改善することが重要です。また、市内観光地を結ぶ地域内交通をさらに充実させることにより、観光客の利便性の向上と滞在の促進を図ることが必要です。

【課題に関する現状の分析と再評価】

- ・基本方針3の実施状況にあるように、市内の観光地、観光スポットは広範囲にわたって存在しており、宿泊後の市内周遊が困難であるのが現状です。近隣地域とも連携した公共交通の利便性の向上と、統一的な案内看板の設置を進め、観光客の周遊を促進する必要があります。

⑦地域や業界、市民が一体となって取り組む体制が必要です

6つの地域が合併してできた京丹後市は、地域や観光団体、市民も含めて一体となった観光を振興する体制が確立されていません。事業を推進していくには、地域、業界など関係者が一体となった取り組み体制が必須です。

【課題に関する現状の分析と再評価】

- ・基本方針5の実施状況にあるように、観光振興計画の推進体制に弱さが見られるため、計画が実現されるための体制づくりを行う必要があります。

⑧縮小する観光客・観光産業を早急に維持拡大基調に戻す必要があります

観光客数、宿泊者数、消費金額の減少傾向をくい止め、増加傾向に持っていくことが急務です。

【課題に関する現状の分析と評価】

- ・第1次計画の期間における観光入込客数及び宿泊客数については減少傾向にあり、目標数値から乖離しているのが現状です。観光入込客の維持拡大を目指して市、観光事業者、観光関連団体、市民がスクラムを組み、社会情勢の変化に対応しつつ、費用対効果が現れる取り組みを進める必要があります。

(3)第2次計画策定の方向

前項で再評価した総括的な各課題については、基本的な課題としては依然解消されおらず、これまで行ってきた実績を踏まえつつ、引き続き対応していく必要があります。このため、第2次計画の策定にあたっては、課題ごとの現状分析と再評価を踏まえつつ、マスタープラン※である第1次計画のコンセプト※、基本方針を踏襲し、個別の事業についてはアクションプラン※を見直すものとします。

その上で、第1次計画でのアクションプランは、観光振興にかかるあらゆる可能性を追求することを重視したため、多様で総花的なアクションプランを前提に策定しましたが、第2次計画では、これまでの実績を評価・分析し、より実効性、実現可能な内容に見直しを行いました。具体的には、次のとおりです。

① 見直しの考え方

- ・ 関連上位計画や環境の変化などを踏まえて、133 のアクションプラン※について、実績の評価・分析を行います。
- ・ 評価・分析に基づく見直しは、限られた予算や体制を踏まえて、施策の集中と選択を行い、より具体的な事業を明らかにします。

② 具体的項目の見直し

- ・ 第1章の現状は時点修正し、課題について見直しの方向を示します。

③ アクションプランの見直しの方法

- ・ アクションプランは、3 か年の評価をもとに、選択と集中の視点から整理を行いました。その見直しの方法は、次の4ステップで行いました。

ステップ1 アクションプランの進捗状況把握(完了・実行中・着手・未着手の4段階で評価)
133 のアクションプランを3段階の優先度別に進捗状況を把握しました。

ステップ2 進捗状況と優先度を考慮して、継続・削除・新規展開を検討
第1次計画の実施状況を評価分析し課題を再評価した上で、なおかつ優先度が高く引き続き継続して取り組むべき事業、未着手で将来も取り組みが困難な削除する事業、完了し削除する事業の3タイプに整理しました。

ステップ3 選択と集中の視点から、重複や類似項目の整理
重複、類似している事業は、統合整理し、項目を減らして、簡潔にわかりやすくしました。

ステップ4 課題の再評価、3か年の環境変化等をもとに新規に重要な事業を追加
市場の変化、進捗状況の変化の中で、新たに取り組むべき事業を検討し、追加しました。

この4ステップを図で示すと次のとおりです。

◇図-13 アクションプランの見直しのステップ

進捗状況	優先度			備考
	A (最も高い)	B (高い)	C (普通)	
	ステップ1			
完了	4件 終了したため削除 (泊食分離の課題は 統合)	該当なし	該当なし	
実行中	すべて継続	ステップ2		ステップ3
着手	すべて継続		該当なし	
未着手	新規展開(1件・携 帯ナビ)	継続(2件)	困難なものは削除 (1件)	個別に判断し、新た な展開、継続、削除 を検討した。
新規追加	優先度が高く新規 に追加が必要な事 業を検討提案			

以上の結果、133 のアクションプランは、79 のアクションプランとなりました。

第2章 将来ビジョン

1 コンセプト※

丹後は日本のふるさと 「極上のふるさと観光づくり」 全市域のあらゆる資源を観光に結びつける 「京丹後まるごと観光」

京丹後市には、自然、温泉、味覚、歴史、文化など素晴らしいふるさとの資源が市域全体にわたり存在し、地域の将来の発展に向けては、これらの貴重な資源を活かした観光を振興することが最も重要な課題です。「観光なくして京丹後市の発展はない」ことが出発点です。

そして、観光客のための観光を超えて、かけがえのない日本のふるさとでもある私たちのふるさと丹後を守り、育てる地域のための観光にこだわる「住んでよし、訪れてよし」の観光地を目指します。

このため、観光関係者だけでなく、行政はもとより市民が参加し、地域が一体となって、観光の可能性を最大限に追求するため、全国でもまれな質をもった「極上のふるさと」を目指した観光地づくりに取り組みます。「極上のふるさと観光づくり」は、これまでの曖昧で漠然とした観光から脱皮し、人、もの、情報、資金の集中と選択を行い、戦略的に観光ビジネスを創造し、地域の雇用の増大と幅広い分野にわたる地域経済の活性化を図り、観光立市の実現を目指します。

2 目標数値（現状の減少傾向を止め、微増を基本目標とする）

※現状は平成 23 年、目標は平成 29 年の数値

□年間観光入込客数 現状 175 万人⇒ 目標 200 万人 約 14%増

長引く経済不況下にあつて、震災、大雪などの自然の脅威が重なり、長期の減少傾向にあるが、情報発信の強化、滞在型観光の促進により、減少を止め、現状維持を基本に、200 万人観光地を目指します。

□年間宿泊客数 現状 35 万人⇒ 目標 45 万人 約 29%増

「京都府丹後観光圏※」による広域での連泊・滞在の仕組みづくり、体験型観光推進による滞在促進の取り組み、教育旅行・合宿旅行の誘致、農家民泊※、インバウンド※などを推進するとともに、将来を担う宿づくりに重点的に取り組み急激な落ち込みを止め、平成 20 年度の宿泊者数である約 45 万人までの回復を目指します。

□年間外国人宿泊客数 現状 905 人⇒ 目標 5,000 人 約 552%増

年間外国人宿泊者数は、宮津市ではすでに約 9,000 人となっています。日本への外国人旅行客は順調に伸びており、単独の誘客や広域連携による誘致活動を強化することで、飛躍的な増加を目指します。

3 基本方針とテーマ

基本方針 1 かけがえのない日本のふるさとでもある私たちのふるさと丹後を守り育てる観光を目指します

市民や京丹後市出身者、京丹後を訪れた人にとって、京丹後市の海、山やまちはたったひとつしかないかけがえのないふるさとです。

ここには、先祖が残してくれた自然、歴史、文化があり、まずこれらを守り育てる観光に取り組みます。

【テーマ】

- ①丹後王国などの歴史遺産、地域の「宝」を活かします
- ②ふるさとの物語を伝え感動につなげます
- ③ジオパーク活動を推進し、豊かな自然を守り活かします

基本方針 2 地域資源を活かして未来を拓くほんまもん観光・体験を提供します

京丹後市には、海、山、里の自然、農業、漁業、ものづくり、食、温泉、歴史、まちなどが織り成すここにしかない地域の資源が豊富にあります。

これらジオパークの恵みである地域資源にこだわり、活かして、地域の未来を築くために、ほんまもんの観光、ほんまもんの体験を提供します。

【テーマ】

- ①海の観光
- ②農の観光
- ③ものづくり観光
- ④さと歩き観光
- ⑤京丹後ブランドとなる土産物づくり

基本方針 3 京丹後人気質をもったもてなし観光と国際観光に取り組みます

京丹後人は、勤勉さ、こだわりの真摯さ、地域の結束力などの気質があり、この土地が先祖から受け継いできた心をもって、京丹後市ならではの温かいもてなしを特徴とする観光を創ります。

また、「極上のふるさと」を積極的にアピールし、外国人旅行客の誘致に積極的に取り組みます。

【テーマ】

- ①味の極上地づくり
- ②ゆっくり滞在できる宿泊魅力の向上
- ③ホスピタリティ※の向上
- ④インバウンド※の推進
- ⑤修学旅行の魅力づくりと誘致
- ⑥快適に移動できる交通環境・サイン※の整備
- ⑦きれいな観光地づくり活動の促進

基本方針 4 徹底したマーケティング※手法で戦略的に情報を発信します

観光客のニーズを把握し、地域の資源を最大限に活かせるテーマ、ターゲットを絞り込み、優先順位、費用対効果などの視点から戦略的に情報を発信します。

【テーマ】

- ①観光マーケットへの感度向上
- ②ターゲット戦略
- ③効果的な情報発信
- ④情報発信ツール※の選択と集中

基本方針 5 地域が総ぐるみで観光のまちづくりに取り組みます

観光は地域が総ぐるみで競争する時代になっており、個々の事業者や地域だけでは限界があります。

京丹後市観光振興条例に基づき、市民総ぐるみで各地域を超えて市域がひとつとなり、産官、業種、業界、年齢などを超えて観光のまちづくりを推進します。

【テーマ】

- ①総合的な観光推進組織づくり
- ②観光活動の原動力となる人材の育成

第3章 アクションプラン

1 重点戦略プロジェクト

重点戦略プロジェクトは、減少傾向を打破するために、多くのアクションプラン※の中から、より具体的に優先して取り組むべき事業を取り上げ、戦略的に早期の効果を得ることをねらっています。

重点戦略プロジェクト 1 滞在型観光の促進

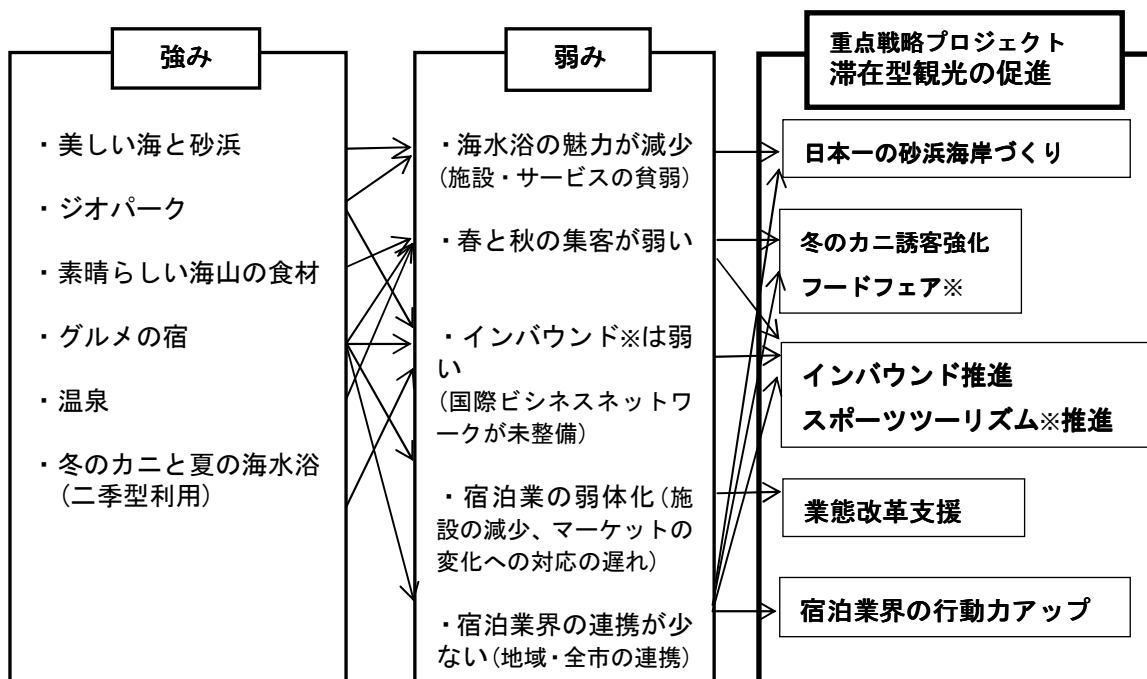
宿泊施設は、観光活動の中心的な役割を担う重要な拠点です。しかし、近年は宿泊客の長期の減少傾向が見られ、地域産業にも影響が危惧されることから、強みを活かして弱みを克服する具体のプロジェクトに取り組み、滞在型観光を促進します。

◇表8 重点戦略プロジェクト1

事業	内容
1. 冬のカニ誘客強化	日本一のカニの魅力をさらに活かして、冬の集客力を高める強化策を打ち出します。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本一のカニの魅力を国内外にさらにアピール ・カニの料理について、京丹後市ならではの名物の開発 ・冬のカニと連携した京丹後の体験等のコースの開発
2. 日本一の砂浜海岸づくり	海岸利用の活性化を図り、年中にぎわう砂浜海岸を目指して、砂浜の環境整備を行い、施設の充実を図り、利便な浜辺づくりを行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・海岸清掃の機械化導入の検討など、保全活動の推進 ・砂浜海岸への遊歩道、及び自転車道の整備、快適なサービス(飲食・レンタル)の提供と利便性の高い施設整備(シャワー、脱衣、休憩など) ・日本一の砂浜海岸としての情報発信
3. フードフェア※の実施	京丹後市の強みである海山の食材をアピールするフードフェアを宿泊施設で统一的に展開します。冬のカニだけでなく、地産地消を基本にオールシーズンのグルメの魅力をアピールします。 <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、春と秋の閑散期に食材を限定して、フェアを実施 ・フードフェアの企画会議、マスコミ・旅行代理店などへのPR ・アンテナショップ※、イベントなどでのPR
4. インバウンド※の推進	海外からの誘客を行うための活動を展開します。 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーブロガー※の招致 ・現地キーマンとの交流、提携 ・ビジット・ジャパン事業※など広域連携による誘致展開 ・個人旅行者に向けた、関西国際空港からの送迎バス事業の検討 ・台湾、中国、及びアセアン諸国等をはじめとする関係国との連携
5. スポーツツーリズム※の推進	スポーツを通じて新しい旅行の魅力を作り出し、地域資源と連携した新しい価値と感動を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史街道丹後100kmウルトラマラソン世界大会をはじめ、各種大会の誘致と施設整備の推進 ・日本一の砂浜海岸を活用した交流の促進

6. 業態改革支援	<p>宿泊業は、日々変化しており、常に改革が求められています。サービス、施設整備、財務、営業展開など様々な改革に対して、コンサルタント派遣や勉強会などを通して、個店の改革を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサルタント派遣事業 ・宿泊事業の診断 ・ホームページの活用など IT 化によるビジネス展開指導など
7. 宿泊業界の行動力アップ	<p>宿泊業界の連携により、地域が一体となった上記の活性化を図るために、情報の共有はもとより、組織的な統合を進めテーマごとの取り組みを図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊業界がまとまった連絡会議の設立 ・海水浴再生部会、フードフェア※部会、インバウンド※部会、送迎バス検討部会などテーマごとの検討推進組織を設立

◇図-14 強みを活かし弱みを克服する事業



重点戦略プロジェクト 2

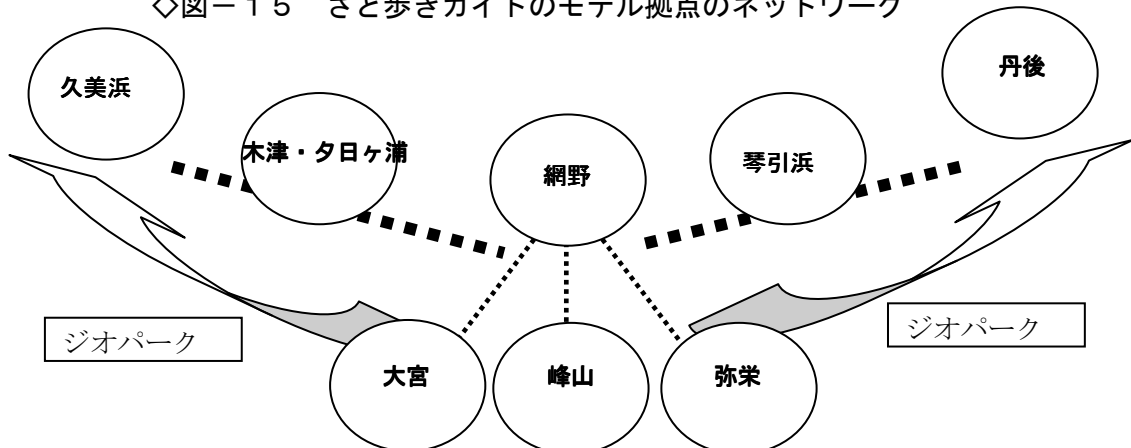
世界ジオパーク活動の推進

日本のふるさと京丹後市の魅力を味わってもらうために、ジオパークを活かした地元のガイドによるさと歩き※を、新たな観光シンボルとして開発し、もう一度来たいと思う感動の旅を提供します。歩きながらのきめ細かな心あたまる案内を基本に、ゆっくりと地域の歴史、文化、グルメ、温泉、産業などを味わうコースを提供します。さと歩き観光は、滞在時間を延長し、素通りを減少させ、グルメの案内やお土産物などの消費を活性化する効果を誘引します。

◇表9 重点戦略プロジェクト2

事業	内容
1. さと歩きコースの開発整備	さと歩きは、サイクリングや徒歩圏内でのコースを前提に、ふるさとの魅力、ジオパークの魅力をガイドを通して提供します。ジオパークを共通に、各地区(久美浜、木津・夕日ヶ浦、網野、琴引浜、間人、峰山など)毎の地域特性に合わせてコースを開発整備します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ジオサイト※を含むモデルコースの開発 ・砂浜海岸への遊歩道の整備 ・駅前などでの案内拠点整備(網野駅などの案内機能の強化) ・さと歩きマップの作成 ・さと歩きのための案内看板、サイン※などの整備 ・コース内での土産物・名物案内、個店のアピール、体験観光との連携、商店街への誘導、生産現場の見学などの組み込み ・無電柱化による景観美化の推進
2. さと歩きガイドの育成・体制づくり	さと歩きのガイドはジオパークの知識も有する必要があるため、地元のガイドの育成を行うとともに受け入れ体制を整備します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド育成講座の開設、認定制度の創設 ・丹後検定の促進と合格者の語り部の活用 ・ガイド組織の整備、予約・受付などのサービス体制づくり ・他地域ガイドとの交流促進
3. グルメの魅力	ジオパークの恵みである京丹後の魅力あるグルメは、特に案内・アピールを徹底する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グルメ店舗の案内、モデルコースへの組み込み ・季節の魚、野菜など、おすすめのグルメの魅力を解説
4. PR 営業展開	ジオパークを活用したさと歩きを目玉商品として展開するために、PR、営業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊での案内、HPでの紹介など ・マスコミ、雑誌などへの掲載 ・教育旅行等誘致への活用

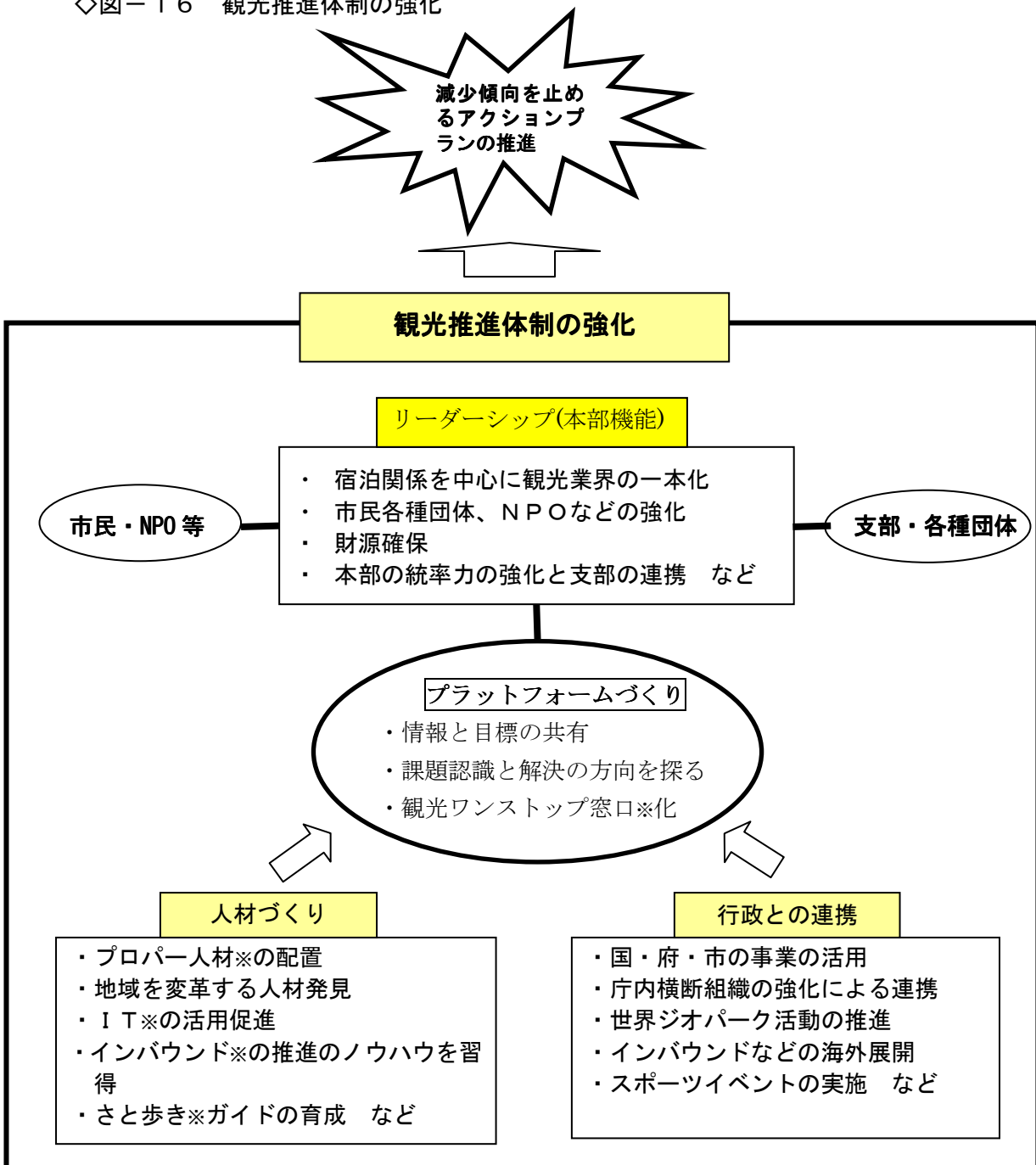
◇図-15 さと歩きガイドのモデル拠点的ネットワーク



重点戦略プロジェクト 3 観光推進体制の強化

全市がひとつになって、観光客・宿泊者数、消費額の減少傾向を止めるアクションプラン※を推進するには、観光協会のリーダーシップのもとで、市民はもとより、民間、行政が連携して総合的に展開していくことが求められます。ひとつのプラットフォーム※で情報や問題を認識し、目標の共有化を図ることによって、企画、商品開発、誘客宣伝、ホスピタリティ※の向上などの様々な面で人材から体制に至る機能を改革、強化します。

◇図-16 観光推進体制の強化



2 アクションプランメニュー

アクションプランメニューは、前章で述べた基本方針ごとに、市、観光関係団体、観光事業者、市民などが取り組むべき具体的な事業の提案で、5年以内に実施に向けた検討を行い、一つでも多くの事業を実施または着手することを目標とします。

「重点メニュー」（太字）は、その中でも特に重要と位置づけるものです。また、桃色枠は「さらに戦略的に取り組むメニュー」、緑色の枠は「重点的に取り組む新規メニュー」を表示しています。

基本方針 1 かけがえのない日本のふるさとでもある私たちのふるさと丹後を守り育てる観光を目指します

凡例：◎＝主体的に ○＝支援・協力など △＝協力・参加など

テーマ	個別プラン	主体別の取り組み			
テーマ① 丹後王国などの歴史遺産、地域の「宝」を活かします	歴史の宝庫、京丹後の発信	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	1 社寺との連携協力を含めて歴史関係者の組織化による発信 ・全国に発信できる歴史的な魅力、資源をさらに関係者で研究・協議する ・社寺関係者との協力連携の推進	○	◎	△	◎
	2 代表的な古墳、史跡を絞り、見学できるための環境整備を行う		○		◎
	3 丹後建国1300年を記念したイベントの実施	○	◎	○	◎
	4 歴史、文化、伝説などを紹介するシリーズ的なガイドブックの作成		○		◎
	地域の「宝」の活用	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	5 「地域遺産」、「京丹後百景」などの市民参加による収集と発信	○	◎	△	◎
	6 地域の祭を利用した観光客の誘致	◎	◎		○

テーマ② ふるさとの物語を伝え感動につなげます	伝説・伝承の活用	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	7 ・丹後七姫、月の輪田などの各種PRへの活用、ゆかりの地環境整備を行う ・各地に伝わる貴重な伝説・伝承を観光に活用する ・丹後七姫を市のマスコットキャラクターとして位置づけ、発信、PRを行う	○	◎		◎

テーマ③ ジオパーク活動を推進し、豊かな自然を守り活かします	「山陰海岸ジオパーク※」の推進		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	8	ジオパーク活動の推進 ・貴重な地質遺産を世界に発信する「世界ジオパーク」再審査に向けた取り組み及びジオサイト※を活用した特徴的なジオツーリズム※の推進 ・「山陰海岸ジオパーク」による世界的発信力を活かし、外国からの旅行客増加を図る	◎	◎	◎	◎
	豊かな自然活用		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
9	貴重な植物のある風景(トウテイラン、ユウスゲ、フクジュソウなど)の積極的な活用と、フクジュソウなどを地域で育て販売する仕組みづくりを行う	◎	○	△	○	

基本方針 2 地域資源を活かして未来を拓くほんまもん観光・体験を提供します

テーマ	個別プラン	主体の取り組み			
テーマ① 海の観光	漁業者と連携した海の体験の実施	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	10 海業振興協議会による観光と漁業の連携推進と漁業体験、漁船遊覧船、漁港見学等の実施 ・漁船などを活用した遊覧船やシートクシー※の実施 ・各種漁業体験、漁港、セリ見学の実施と漁家民泊の取り組み推進 ・海業振興協議会による観光と漁業を結びつける検討、連携の推進	○	◎		○
	11 年中にぎわう砂浜海岸づくりに向けた日本一の砂浜海岸づくりの取り組み推進 ・砂浜海岸の環境保全及び施設整備とサービスの提供 ・砂浜海岸を活用した交流の促進	○	○	○	◎

テーマ	個別プラン	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
テーマ② 農の観光	12 農業体験、農家民泊※、海と連携した体験の実施、グリーンツーリズム※への対応 ・農業体験、自然ふれあい体験の実施と古民家等を利用した宿泊、農家民泊の実施 ・山間部で農業体験と海の体験などを組み合わせた1泊2日体験メニューの提供	◎	○		○

テーマ③ ものづくり観光	機械金属工場の見学		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	13	・「丹後ものづくりパーク」を拠点とした機械金属工場の見学実施 ・機械金属関係の土産物の改良・開発 ・関係者による協議会の設置とサポート体制の確立	○	○		◎
	丹後ちりめん観光		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	14	・丹後ちりめんを活用した工場見学、小物づくりや和装体験の実施、土産物開発 ・地場産業を活かしたちりめん製品、特に女性をひきつける製品の改良・開発 ・成人式用の着物が購入できる女性親子向けのツアーの実施	○	◎		○

テーマ④ さと歩き※観光	市内を周遊する観光ルートの設定		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	15	各町の代表的なスポットを入れた定番観光ルートと、エリア別、所要時間別、テーマ別など、多種多様な観光ルートの設定	○	◎		○
	地域文化にふれられるまち歩きコースの作成		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	16	各町の代表的な地域を絞ったまち歩きコースの設定と、コース内の順路標識、看板整備、無電柱化による景観美化		○		◎
	17	ちりめんをテーマにしたまち歩き ・自転車、ちりめん製傘の貸し出し、観光客と地元の人とのふれあい機会の設定など、地域の特徴、丹後の特色を活かした演出 ・着物が見える街並みの演出などとまち歩きとの連携	○	◎		○
	18	・空き家、空き店舗の有効活用の検討 ・まちの商店、宿、民家などを活用したお茶のみ処、トイレ処などの整備	○	◎		○
	観光ルート、さと歩きコースの発信		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
19	観光ルート、さと歩きコースをまとめたマップ集、ガイドを作成し、宿、観光施設などへ配置するとともに、インターネット上での配信を行う		◎		○	

	20	丹後大宮駅、峰山駅、網野駅、久美浜駅などにおいてさと歩き※と地域の観光案内を行う拠点を既存施設を利用して整備 ・駅構内・駅前施設、観光施設などでの観光の玄関としての観光案内センター機能整備 ・1年を通じた観光ガイドなどによるサービスの確保		○		◎
--	----	---	--	---	--	---

		土産物の改良・開発	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
テーマ⑤ 京丹後ブランドとなる土産物づくり	21	市の代名詞、顔となる代表的な土産物や特産品の改良・開発と行政支援の確立	◎	○		◎
	22	サワラなどの水産加工品、くずナシなど果実の有効活用による特産品の改良・開発	◎	○		○
	23	マスコミ、著名人を利用した商品PR	○	○		◎

基本方針 3 京丹後人気質をもったもてなし観光と国際観光に取り組みます

テーマ	個別プラン		主体の取り組み			
テーマ① 味の極上地づくり	カニを中心とした食の魅力		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	24	ニーズ・季節に応じてカニメニューに多様性を持たせる、五感であじわってもらう工夫 ・冬でも他の食が選択できるコース、質重視コース、季節を限定しないカニ料理の創作など、カニメニューに多様性を持たせる ・なぜ丹後で食べるカニがおいしいか、ストーリー性や五感で味わってもらえる工夫など	◎	○		○
	季節感ある食と地産地消の推進		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	25	・農業者、漁業者と観光業者とをつなぐ関係者による協議の推進	○	○		◎

	26	<p>地産地消の名物づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣を活用したシカ、イノシシ肉の活用 ・特産品化に取り組んでいるサワラを提供する食事処、土産物店、宿の増加を図る ・山菜採りなど自然の恵みを活かした体験メニューの開発と食への活用 ・ばら寿司などの郷土料理、海、山、里の地元食材を活かした食づくり体験の実施 ・飲食店などにおける地産地消、丹後ブランド使用のPR(共通のれんの設置など) ・久美浜湾の丹後とり貝の活用 ・その日に収穫、出荷される商品がインターネット発信される仕組みづくりの検討 ・ジオパークを活かした食の提供 	◎	◎		◎
	27	丹後あじわいの郷に、丹後一円の食と土産物を集めて発信、販売する	○	◎		○

テーマ② ゆっくり滞在できる宿泊魅力の向上		京都府丹後観光圏※で連携した宿泊・滞在の魅力づくり	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	28	<p>宿泊者数及び稼働率のアップに向けて、宿泊そのものの魅力を向上させる総合的な対応を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設の業態の改善、経営改革に対するコンサルタント派遣など支援 ・京阪神などからの定額安価なバス路線の確保による誘客支援 ・宿泊業界の全市的な情報交流、統一事業などができるプラットフォーム※づくり ・地産地消による名物グルメフェア 	◎	◎		◎
	29	京都府丹後観光圏での取り組みと連携し、丹後でのゆったりした過ごし方の提案、特色ある体験など、滞在、連泊(泊食分離を含めた)の仕組みづくりと一体的な発信	◎	◎		○
	30	宿が営業マンになって、地域の観光の魅力を的確にPRする	◎	○		
		数、種類が豊富な温泉のさらなる活用	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	31	数・種類が豊富な温泉のまちを一体的にPRする取り組み(「京丹後七湯」など)	○	◎		○
	32	<p>長寿の里であることと温泉、薬草、運動、食などを組み合わせた健康、美容をテーマにした旅行商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「エコ」、「ヘルス※」、「グリーン※」など新たなツーリズムへの対応 ・京丹後式健康生活プラン、京丹後健康長寿食の開発 ・医療観光推進への取り組みの検討 	○	◎		○

		観光業におけるもてなしの向上	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
テーマ③ ホスピタリティ ※の向上	33	・観光関係者全体でもてなしの資質向上に取り組む ・宿、観光施設で統一のご意見箱を設置し、施設毎に分析と対応を実施	◎	◎		○
	市全体でもてなし		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	34	市民が地域に誇りと愛着を持ち、地域観光資源に関する知識の向上など、観光に対する理解をもってもらう「もてなし大賞」の実施、学校、地域、企業などへの協力要請など、市全体でもてなしの意識の向上を図る ・市民が地域に誇りと愛着を持ち、地域観光資源に関する知識の向上を図る	○	◎	○	◎
	35	・観光ガイドの有効活用、周知徹底を図る ・さと歩きガイドの制度化と有効活用 ・丹後ふるさと検定合格者、ネイチャーガイド養成講座修了者等の観光ボランティアの充実、派遣体制の整備		◎		◎
	36	丹後ちりめん資料館、野村克也記念館など新たな観光施設整備の検討		○		◎

		インバウンドの推進と受入体制整備	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
テーマ④ インバウンド ※の推進	37	外国人から見た丹後の良い点を調査し、商品戦略をたてながら、アジア地域を中心とした販売促進活動、誘致活動の実施及びパワーブロッガー※招致による誘客 ・山陰海岸ジオパーク※を活用した国際交流と誘客の推進 ・スポーツ交流の実施推進 ・台湾、中国、アセアン諸国などとの国際交流の推進 ・舞鶴港の海外航路との連携		◎		◎
	38	外国語講座、接客のあり方など、研修機会を増やす		◎		◎
	39	外国語パンフレット、ホームページ、サイン※の整備		◎		◎
	40	人材バンクを設置して、通訳などを派遣できる仕組みをつくる		○		◎

		教育旅行の誘致	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
テーマ⑤ 教育旅行の魅力づくりと誘致	41	環境の取り組み、ジオパーク認定地域の特色を活かしたほんまもん体験などを中心にPRし、積極的に修学旅行誘致を図る		◎		◎
	42	外国からの教育旅行誘致を推進する		◎		◎
	43	民宿等での分宿※形態を地域で取り組み、地元の人とのふれあいをアピールする	◎	○		△

		アクセス、丹後周遊の交通網整備	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
テーマ⑥ 快適に移動できる交通環境・サイン※の整備	44	京都縦貫自動車道、鳥取豊岡宮津自動車の早期整備促進				◎
	45	コウノトリ但馬空港～羽田空港直行便の実現に向けた取り組み推進				◎
	46	市内幹線道路の雪による交通障害の解消、丹後半島一周道路(R178)の道路改良、城崎久美浜間の三原峠トンネルの早期着手促進				◎
	47	「日本風景街道」※登録(R178 丹後町～久美浜町)を活かした道路環境整備		○		◎
	48	大宮森本 IC 完成を見越し、弥栄、丹後方面へのアクセスルート改善				◎
	市内周遊手段		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	49	観光施設間の連携を推進し、各施設を周遊する手段を検討	○	◎		◎
	50	上限 200 円バス※の路線拡大、バス停増設に伴う、観光ルート、マップ作成	○	◎		◎
	51	丹後地域広域での1日乗り放題バスの運行	◎			○
	駅周辺整備及び北近畿タンゴ鉄道の活用		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	52	北近畿タンゴ鉄道の総合的な活性化支援策の展開	○	○	○	◎
	53	駅施設、機能の総点検と必要な整備、適切な管理運営	◎			◎
	54	北近畿タンゴ鉄道の着物着用者割引、バス周遊とセットにしたチケット発行など	◎	○		○

	55	主要駅を拠点としたレンタサイクルの実施と、サイクルトレイン※の観光への活用	○	◎		○
	観光サイン整備		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	56	誘導看板、説明看板などの計画的整備、老朽化看板の早期撤去				◎
テーマ⑦ きれいな観光地づくり活動の促進	環境整備		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	57	花いっぱい運動を市内全域へ広げるため、推進検討会を設置し、助成制度など行政が情報提供、支援を行い、河川沿いへの植樹、市民花壇、企業花壇などによる自主的な環境運動を推進	○	○	○	◎
	58	年中にぎわう日本一の砂浜海岸づくりを目指した海岸清掃の取り組み推進・砂浜清掃の機械化導入の検討	○	○	○	◎

基本方針 4 徹底したマーケティング※手法で戦略的に情報を発信します

テーマ	個別プラン		主体の取り組み			
テーマ① 観光マーケットの感度向上	観光マーケティング		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	59	市場ニーズや変化を把握できる定期的な調査や外部専門機関等とのネットワークづくり		◎		◎
	60	専門家などによる相談、アドバイス体制の確立		◎		◎

テーマ② ターゲット戦略	ターゲットの設定		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	61	国内ターゲットを関西圏から中京圏、関東圏へ広げる	◎	◎		◎
	62	アクティブシニアと女性を意識した商品開発	◎	◎		○
	63	スポーツ施設の情報発信による大会・合宿の誘致	◎	◎		◎

テーマ③ 効果的な情報発信	効果的な発信、PR		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	64	・市職員はもとより、全市民が営業マンとして市をPRする取り組みの推進 ・パンフレットを学校、家庭などにも配布し、市民の意識、知識向上を図る	○	○	○	◎
	65	宿、観光施設などでのあらゆる観光情報の収集と提供を行うとともに、「まちの駅※」制度による商店などからの情報発信ともてなしの取り組みを推進	○	◎		○

	66	フィルムコミッション※設置など、映画、TVなどのマスメディアを活用した発信力強化		○		◎
	67	ケーブルテレビ※、コミュニティFM※を活用した観光情報の発信と共有化		◎		○
	68	本市のイメージを戦略的にアピールする「ゆるキャラ※」・キャッチコピー※などの活用		◎		○
	69	京丹後ふるさと応援団※、京丹後市博士※、丹後観光ロコミ大使※の積極活用		○		◎

テーマ④ 情報発信ツール※の選択と集中	パンフレットの整備・有効な配布・活用方法		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	70	マップ等のパンフレットの整備 ・テーマ別の周遊コース、さと歩き※コースなどのマップ整備 ・市外(誘客促進)、市内(周遊促進)に分け、有効な配布・活用方法を検討する		◎		○
	ITを活用した情報発信		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	71	観光情報サイトを一本化し、すべての宿、観光施設などのページにリンクする。また、すべての観光パンフをデジタル化し活用する ・観光情報サイトを観光協会ホームページに一本化し、シンプルでわかりやすいものに整理 ・すべての観光パンフレットをデジタルブック※化し、インターネット上で広く発信する ・観光情報サイトをすべての宿、観光施設などへ広くリンクされるよう働きかける ・イベント情報の収集、発信を的確に幅広く行う(各種ホームページでの発信、マスコミ活用)	○	◎		○
	72	観光客・市民への直接的な情報交流 ・携帯端末などを通して、宿・観光業者と観光客が双方向の情報受発信を行う。 ・PR、検索・ナビなどの機能をもったIT対応の環境整備を図る。(ツイッター、フェイスブックなどを含む)	◎	◎	△	◎
	イベントの改善と発信強化		観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
73	既存イベントについて、観光振興の観点での工夫、見直しを検討する		◎		◎	

基本方針 5 地域が総ぐるみで観光のまちづくりを推進します

テーマ	個別プラン	主体の取り組み			
	観光協会を中心とした推進体制づくり	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
テーマ① 総合的な観光推進組織づくり	74 観光協会内にテーマ別、課題解決型の推進体制を確立するなど、事業推進体制を強化する ・観光協会の体制強化と業務の整理・拡充 ・宿泊、飲食、土産物、地産地消などテーマごとの課題解決型の業界組織の形成 ・実務面のプロパー人材※の確保 ・地域や NPO などによる観光をテーマとしたコミュニティービジネス※の振興	○	◎		○
	75 ・観光協会、商工会を中心とした推進体制の形成		◎		○
	京都府丹後観光圏※など広域連携による観光施策の推進	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
	76 丹後広域観光キャンペーン協議会※、豊岡市など、利害と展望を共有する地域及び団体等との連携による誘客の推進 ・京都府丹後観光圏整備事業、丹後広域観光キャンペーン協議会、海の京都(みやこ)構想※との連携 ・山陰海岸ジオパーク※構成自治体等との連携	○	◎		◎
	77 国、京都府、関西広域機構、北近畿広域観光連盟、NHK 大河ドラマ誘致促進協議会など広域組織との連携	○	◎		◎
	78 JR、北近畿タンゴ鉄道、丹後海陸交通などの運輸機関との連携	○	◎		◎
テーマ② 観光活動の原動力となる人材の育成	人材の育成	観光業者・生産者など	観光協会・関係団体	市民・市民団体	行政
79 ・ホスピタリティ※研修会、ガイド養成講座等の実施(生涯現役の発想で高齢者の知恵と技を観光に活かす) ・後継者の育成 ・関係者の研究会、勉強会による現状に対する改善意識の醸成	◎	◎	○	◎	

第4章 地域別計画

地域別計画は、全市を対象とした将来ビジョン、アクションプラン※とともに、地域の現状や課題、特徴を踏まえて、地域別に関係者が一体となって、取り組む内容を整理するものです。

1 地域別計画の目標とテーマ

地域	目標	テーマ
峰山	京丹後市の都市機能が集積した中枢拠点として、産業観光への取り組み、スポーツ施設の活用や丹後ちりめんや歴史をテーマとしたまち歩きの整備などを進めます	<ol style="list-style-type: none"> 1 産業観光とスポーツ観光の推進 2 丹後ちりめんと歴史を活かしたまち歩き観光の推進 3 玄関口峰山駅の改善
大宮	京丹後市の玄関口としての機能を充実するとともに、地産地消などによる農業や自然環境を活かしたほんまもの観光に取り組めます	<ol style="list-style-type: none"> 1 アグリツーリズム※の推進 2 「京丹後の玄関口」としての機能整備 3 各種資源などの有効活用
網野	京丹後市の宿泊温泉拠点としてホスピタリティ※を向上させ、海や漁業、歴史資源、丹後ちりめん機屋の街並みなどと一体となった滞在型の地域づくりを進めます	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊富な資源、施設の有効活用 2 公共交通と観光・散策ルート、街並み整備
丹後	海や漁港の景観、グルメなどの魅力を活かしつつ、まち歩き、海岸を周遊できる環境などの整備を行います	<ol style="list-style-type: none"> 1 まち歩きによる魅力発信 2 観光資源の有効活用 3 交通便利性の向上と周遊魅力の向上
弥栄	高原の自然、歴史、史跡、温泉や農業を活かし、施設などの有効な連携により、内陸の魅力ある観光活動を促進します	<ol style="list-style-type: none"> 1 花、山野草を中心とした自然の魅力発信 2 歴史・史跡の活用 3 観光施設を中心とした施設・地域間の連携
久美浜	海岸や久美浜湾の自然景観を活かし、街並みの整備や地元食材による食の魅力に取り組めます	<ol style="list-style-type: none"> 1 久美浜湾と日本海を中心とした資源活用 2 まちの活性化とまち歩き、歴史による魅力発信 3 地元食材の活用

2 地域別計画

(1) 峰山地域 目標：産業観光、まち歩き観光に取り組みます

① 現状・課題、特徴など

現状と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 官公署、事業所、工場等の集積地であり、観光要素は少なくビジネスでの宿泊者が多い ・ 国内最大規模の古墳をはじめ、神社、寺院などの見どころが多い ・ スポーツ施設、文化施設が整備されており、観光への活用も考えられる ・ 住民の観光に対する意識がやや低い

主な観光エリア	特徴	主な観光要素
市役所周辺	神社、丹後ちりめん工場、商店などまち歩きの魅力	金刀比羅神社、狛猫、御旅市場（日本一短いアーケード）、ちりめん工場、機械金属工場、ものづくりパーク、薬師ヶ丘さくらの森公園（震災記念館）、峰山総合公園
天女の里周辺	羽衣伝説、稲作発祥伝説の地	天女の里、乙女神社、磯砂山、慶徳院（襖絵）、ウディいさなご（体験）、月の輪田（稲作発祥伝説）
その他	峰山途中ヶ丘公園、赤坂今井墳墓（国指定史跡）、禪定寺（丹後ちりめんゆかりの寺）	

② 地域計画

<p>1. 産業観光とスポーツ観光の推進</p> <p>① 規模、質とも向上している機械金属工場の見学を観光と結びつける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ものづくりパークから複数の工場見学のルートを設定し発信する ・ 機械金属工場等への協力要請を行い、土産物の開発、効果的な仕組みづくりなどを検討する ・ まずは子どもをターゲットに考える <p>② 途中ヶ丘運動公園、峰山総合公園など充実したスポーツ施設を活用した誘客の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ施設の情報をひとまとめにし、関係者へのPRや宿泊施設などから発信を行う ・ 大規模なスポーツ大会、合宿の誘致を推進する
<p>2. 丹後ちりめんの歴史を活かしたまち歩き観光の推進</p> <p>① 峰山駅と金刀比羅神社、御旅市場、丹後ちりめん工場などをつなぐまち歩きの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コース内への食べ物スポット、トイレ、休憩処などの整備 ・ 御旅市場に丹後の食を集め、食の魅力をPRする ・ レンタサイクルの実施 ・ 猫プロジェクトの推進 <p>② 史跡・街並みなどの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤坂今井墳墓、湧田山古墳、月の輪田など、代表的な史跡を絞って看板、駐車場などの整備を行う ・ 歴史ある街並み景観保全のための取り組みを検討する
<p>3. 玄関口峰山駅の改善</p> <p>① 観光玄関口として駅の機能向上、イメージアップに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 券売所を1階に移転させるなど、利用しやすい施設となるようハード面での改善の工夫 ・ 売店運営や窓口業務の改善など、観光客の視点に立った適切な管理運営 ・ 案内看板、観光情報の充実を図る

(2)大宮地域 目標:アグリツーリズム※と情報提供機能の充実を推進します

①現状・課題、特徴など

現状と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・国道312号周辺の商店、農業などの産業の集積地で、観光の要素は少ない ・与謝天橋立ICから京丹後市への玄関口にあたり、観光客の通過が多い ・ブナ林などの豊かな自然が広がり、観光での有効活用が可能 ・丹後周辺を観光する上での中心的位置にあたり、観光の拠点となりうる ・住民の観光に対する意識がやや低い

主な観光エリア	特徴	主な観光要素
丹後マスターズ ビレッジ周辺	市入口にあたり交通の利便性が良い	おおみや小町温泉、大宮ふれあい工房（体験）、大宮売神社、峯空園（桜スポット）、丹後ちりめん
明田、五十河周辺	ブナ林を代表とする豊かな自然とこだわり農業	内山ブナ林（近畿最大規模、福寿草、あじさい）、小町公園（小野小町ゆかりの地）、季楽里（体験工房）、名水、大宮森本IC設置予定地
その他	平地地蔵、国道312号周辺の飲食店、イチゴ狩り	

②地域計画

<p>1. 「アグリツーリズム※」の推進</p> <p>①地元の農作物提供の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係組織で「地産地消協議会」を設置し、システムの構築や販売ルートを確認させ、地元農作物の流通を図る ・竹炭米の例など、ストーリーやこだわりをもったブランド化の取り組みを推進する <p>②ともに汗をかき、地元の人とふれあう、ストーリーのある体験の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古民家などを利用した宿泊や農家民泊※と自然ふれあい体験・農業体験の実施 ・NPO法人を核とした体験活動の推進 ・農業の体験、海の体験などを組み合わせたメニューの提供など、山・農と海との連携を推進する
<p>2. 「京丹後の玄関口」としての機能整備</p> <p>①案内・情報提供機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設を活用した情報、トイレ、バス駐車場、土産物がそろった複合的なインフォメーションセンター※整備を検討する ・「観光案内交番」など、飲食店などにおける観光情報発信の充実、協力施設の拡大を図る <p>②道路環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大宮森本IC設置に伴う延利、森本周辺の施設、環境整備と丹後町方面へのアクセスルートの検討 ・大宮森本ICに関連した新たな施設などが整備される際、地元のコンセンサスと景観面での規制・配慮を考える ・国道312号沿いの清掃、花運動、景観保全、街路灯整備など、地域による取り組みを推進する
<p>3. 各種資源などの有効活用</p> <p>①自然、出身著名人、施設、地理的条件の積極的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内山ブナ林散策コースの設定とガイド案内を実施 ・川遊び体験ができる環境整備（明田、延利、五十河周辺） ・京丹後市出身の著名人を活用したイベント、商品開発の実施 ・大宮、峰山のスポーツ施設を活用した誘客と滞在の促進 ・丹後地域の中心地で周遊の拠点となりうる立地的条件を活かした取り組みの推進

(3)網野地域 目標：宿泊を中心とした滞在型観光地を目指します

①現状・課題、特徴など

現状と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・市内で最も観光客が多い地域である ・海側に多くの温泉地、海水浴場が並び、観光の中核を担っている ・海、温泉、歴史、丹後ちりめんなど、あらゆる観光資源に恵まれている ・カニと温泉で宿泊・昼食客は多いが、地域での滞在時間は短い ・宿周辺などでまち歩きができる環境整備が不十分 ・魅力的な景観、観光資源を有する浜詰・浅茂川を結ぶ府道の活用が不十分 ・網野駅周辺の賑わいがなく、玄関口としての印象が悪い

主な観光エリア	特 徴	主な観光要素
木津温泉周辺	京都府最古の木津温泉を有する、歴史ある温泉地	温泉（京都府最古、足湯あり）、カニ、松本清張小説「Dの複合」舞台、果樹、ホテル
浜詰・夕日ヶ浦周辺	カニと温泉で市内一の観光地に成長	温泉（外湯あり）、カニ、夕日ヶ浦（日本の夕陽百選）、海水浴
浅茂川・小浜地区	八丁浜を中心に、多彩な観光要素が存在	海水浴、カニ、温泉（外湯あり）、浦島伝説（浦島太郎、乙姫）、丹後ちりめん（工場、織り元多数）、離湖、浅茂川漁港、八丁浜シーサイドパーク、サーフィン、牧場
掛津・琴引浜周辺	日本一の鳴砂の浜、琴引浜を有する	琴引浜（国天然記念物・名勝）、琴引浜鳴き砂文化館、海水浴、カニ、温泉（砂浜に湧き出る）
その他	網野銚子山古墳（国指定史跡）、静の杜・静神社（静御前ゆかりの地）、郷村断層（国天然記念物）、切畑地区（自然豊かな山里と名水、ホテル）、霧降りの滝、丹後ばら寿司、子午線	

②地域計画

1. 豊富な資源、施設の有効活用
<p>①海、漁港、さかな屋と観光を結びつける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セリ見学にあわせた朝市の実施とさかな屋（浅茂川地内）を観光客向けに変える ・浅茂川地区などでのまち歩きの推進と、「魚」をキーワードにした観光ルート開発 <p>②静神社、嶋児神社、銚子山古墳など歴史スポット、史跡の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各史跡における道路、案内板、駐車場の必要な整備 ・静神社を夕日のスポットとしてPRする <p>③八丁浜シーサイドパークの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国レベルのグラウンドゴルフ大会など、観光振興につながるスポーツ大会の実施
2. 公共交通と観光・散策ルート、街並み整備
<p>①海岸線を中心としたルート整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後町から続く三津～浜詰までの海岸線を「夕日の道」として整備、PRする ・浜詰海岸から小天橋にわたる約8kmの砂浜海岸への遊歩道、自転車道などの整備促進 ・浅茂川～浜詰間の府道を観光ルートとしてPRする ・網野～浜詰間の国道の積雪による交通障害への対策の検討 <p>②浜詰地域の観光まちづくりを推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無電線化の推進など街並み整備の取り組みと、まち歩きを推進する <p>③まちの駅※、立ち寄りスポットなどの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちの駅」など、店の軒先を利用した休憩所、お茶飲み処、散策ルート上のトイレ整備 ・ちりめん製傘の貸し出しなど特色ある取り組み

(4)丹後地域 目標：海、漁港、景観を活かした魅力に磨きをかけます

①現状・課題、特徴など

現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・立岩、屏風岩、丹後松島などの奇岩とリアス式海岸が織りなす市内随一の海岸景観 ・ブランドガニ「間人ガニ」の産地として、全国的に知名度が高い ・天橋立・伊根を結ぶ「丹後半島一周」のルート上にあり多くの周遊客が通過する ・多くの観光客が通過するが、滞在につながらない ・間人の街並み、漁港など、雰囲気ある風景が十分に活かされていない ・駅から遠い上、公共交通による周遊の利便性が悪い ・美しい海岸景観は眺めるだけで、十分な活用がされていない 	

主な観光エリア	特徴	主な観光要素
間人・竹野周辺	間人ガニの産地、丹後の象徴・立岩のある海岸	カニ（ブランド間人ガニ）、温泉、道の駅、立岩、大成古墳、屏風岩、間人漁港、まち歩き、海水浴、キャンプ、古代の里資料館、神明山古墳（国指定）、間人皇后・聖徳太子母子像、漁家民宿
宇川・袖志周辺	抜群の海岸景観、灯台がある市内随一の景勝地が続く	経ヶ岬灯台（日本の灯台50選、近畿最北）、丹後松島、袖志の棚田（日本の棚田百選）、碓高原（ステーキハウス）、温泉、海水浴、魚釣り、アユ、農家民宿
その他	丹後半島一周、依遅ヶ尾山、山野草	

②地域計画

1. まち歩きによる魅力発信
①間人、中浜などの港町のまち歩きの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・漁港、セリ、漁業に関わる人の風景を活かす取り組みや地元の人とのふれあい機会設定 ・道の駅において、車を降りてまちを歩く仕組み、情報提供、環境づくりを推進する ・まち中、路地をきれいに保つ取り組み ・まち歩きマップの整備、宿、観光施設でコース、ガイドなどの情報提供の実施
2. 観光資源の有効活用
①経ヶ岬灯台のさらなる活用 <ul style="list-style-type: none"> ・灯台一般公開の回数・期間の増加、「かわらけ投げ」の実施など、さらなる魅力・発信力アップの取り組み ・灯台、よし野の里、碓高原をルート化、セットにした発信 ・経ヶ岬行きの路線バスの増便（伊根方面、間人方面とも） ②ジオパークとその恵みをより一層活かす取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・変化に富んだ海岸線の景勝地を海から見せる遊覧船の取り組み推進 ・農業・漁業体験、農家・漁家民宿などを活かした、観光業者と農業・漁業者との連携した取り組みの推進 ・立岩、大成古墳、丹後松島周辺のジオパーク散策コース設定とガイドの実施 ・カニに勝る食材はない、世界一のカニのまちを目指す
3. 交通利便性の向上と周遊魅力の向上
①滞在・周遊促進のための交通、道路整備 <ul style="list-style-type: none"> ・丹後町内を周遊できる車の運行や着地型ツアーの実施、路線バスによる観光コース設定 ・碓高原、丹後松島、久僧などで広がっている花運動の取り組みを広める ・間人漁港、立岩へ大型バスで行けるよう、アクセス道路及び駐車場整備を行う

(5)弥栄地域 目標:花、山野草を中心に自然と歴史の魅力発信に努めます

①現状・課題、特徴など

現状と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・丹後あじわいの郷を中心に、弥栄あしぎぬ温泉、森林公園スイス村など観光施設への誘客が中心 ・特に野間地区は自然の宝庫であり、山野草、福寿草など素材は魅力的である ・駅がなく、また公共交通の便が悪いため、施設間の周遊が困難 ・京丹後市エコエネルギーセンター、太鼓山風力発電など、エコスポット※として視察・見学が増加 ・主要施設への入込客が下降している ・魅力的な素材が十分に活用されていない

主な観光エリア	特徴	主な観光要素
野間、スイス村周辺	豊かな自然に恵まれた素朴な集落と高原リゾート	スイス村（キャンプ、スキー、環境学習、体験、太鼓山風力発電）、山野草、福寿草、細川ガラシャ（隠棲の地の碑、ガラシャ米）、野間そば、野間川（アユ、アマゴ）、ホテル、農家民宿
あじわいの郷周辺	あじわいの郷と温泉による集客	丹後あじわいの郷（道の駅、自然・農業・食の体験、太陽光発電）、弥栄あしぎぬ温泉
その他	大田南古墳群（青龍3年鏡）、京丹後市エコエネルギーセンター、酒蔵	

②地域計画

1. 花、山野草を中心とした自然の魅力発信
<p>①丹後あじわいの郷、スイス村、野間地区を中心とした花、山野草の魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイス村のゲレンデを利用して日本一の芝桜を目指す ・丹後あじわいの郷の花の魅力アップと発信強化を行う ・野間、味土野地区に自生する福寿草の魅力を発信する <p>②須川、味土野地区の山野草、野間川を活かした取り組みを推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山菜採り、筍堀りなど、山の食材を採取する取り組みの体験事業化と、食への有効活用 ・イワナ養殖など、野間川の観光面での活用をより一層推進する
2. 歴史・史跡の活用
<p>①多くある古墳などの史跡の価値、魅力を発信し活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒部銚子山古墳、奈具岡遺跡、遠慮遺跡、大田南古墳群などの一定整備と維持管理、ガイドの実施 ・細川ガラシャの里について、丹後七姫ゆかりの地の一つとして一定の整備と維持管理
3. 観光施設を中心とした施設・地域間の連携
<p>①あじわいの郷、スイス村、あしぎぬ温泉を中心とした施設、地域間のネットワーク形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係施設などで協議会を組織し、施設間の連携方策、周遊の仕組みづくりなどを検討し実施する ・環境関連施設を使用した観光・環境・農の連携。バイオマス※発電施設など既存施設の観光での活用 ・観光に関連づけることができる民間人、施設の掘り起こし

(6)久美浜地域 目標:久美浜湾とかぶと山をより一層活用します

①現状・課題、特徴など

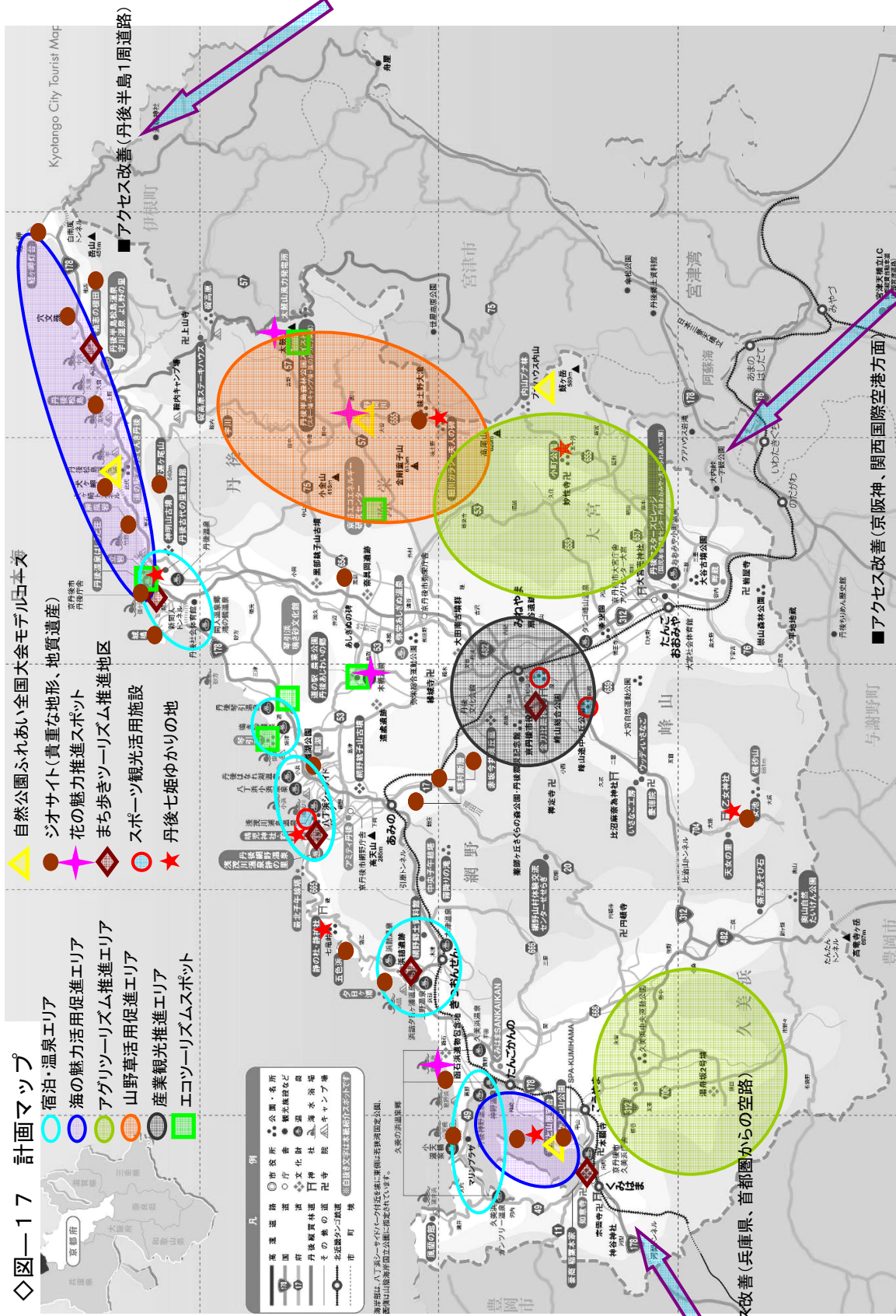
現状と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかで風光明媚な久美浜湾とかぶと山からの絶景は他地域にない魅力 ・宿泊施設は湊宮地区に集中しており、民宿の割合が多い ・カニに加え、カキ料理が冬の食の魅力となっている ・小天橋から浜詰海岸にわたる約 8km のロングビーチと、ユウスゲ、トウテイランなど貴重な海浜植物がある海岸の景観が魅力 ・久美浜湾でのカヌー、ドラゴンカヌーといった特色ある体験ができる ・久美浜湾、かぶと山を活用した取り組みが不十分である ・久美浜一区の街並み整備を行っているが、観光客がまち歩きするには魅力が少ない ・夏の海水浴、冬のカニ・カキ以外の誘客力が弱い

主な観光エリア	特 徴	主な観光要素
久美浜湾南側	稲葉本家を中心とした歴史ある街並みとかぶと山の景観	久美浜湾、かぶと山、街並み、稲葉本家、如意寺（関西花の寺）、浜公園、カヌー、ドラゴンカヌー、熊野神社（川上摩須郎女ゆかりの地）
久美浜湾北側	海水浴と温泉、日本海と久美浜湾に面する宿泊エリア	海水浴（ロングビーチ）、久美浜湾、温泉、カニ、カキ、カキ漁、魚釣り、ゴルフ場、ユウスゲ、トウテイラン、マリンプラザ
旭・蒲井地区	自然豊かな隠れ家的スポット	海水浴、温泉、ツリーハウス、クラインガルテン※、魚釣り
その他	奥山自然たいけん公園、果樹（平田、箱石地区）、牧場、スサノオノミコト、酒蔵、コウノトリ、龍伝説	

②地域計画

1. 久美浜湾と日本海を中心とした資源活用
<p>①かぶと山展望台からの絶景の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩いて上がって絶景を体感してもらえるよう、積極的な情報提供とイベントなどでの登山機会の増設 ・かぶと山散策コースの設定とガイドの実施、不足している看板の整備 <p>②久美浜湾の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊覧船、シータクシー※、屋形船などの久美浜湾内での運航 ・ドラゴンカヌー体験の受入れ整備 ・湾岸沿いへ桜、もみじなど植樹し、湾岸景観の魅力向上を図る ・カキ養殖、白鳥飛来などの景観活用 ・景観を活かしたオイスターバーなど飲食施設の整備促進 ・小天橋から浜詰海岸にわたる約 8km の砂浜海岸への遊歩道、自転車道などの整備促進 <p>③日本海沿岸の貴重な海浜植物の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユウスゲと夕日景観、トウテイランなど、貴重な海浜植物や山野草の活用
2. まちの活性化とまち歩き、歴史による魅力発信
<p>①街並みの保存と活性化を行い、観光へ活用する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久美浜一区を中心とした街並み保存活動を推進しながら、まち歩きコースを設定する ・空き家、更地の活用、空き農地と住宅をセットにしたレンタル等による商店街の活性化 ・グループホーム、ケアハウス、短期滞在施設など、セカンドライフの場所として発信し交流・定住人口の増加を図る ・全国に発信できる歴史的な魅力、資源をさらに研究・協議する
3. 地元食材の活用
<p>①カキ、いさざ、山野草、砂丘地を利用した野菜、果樹など地元食材の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節感にこだわった食の提供 ・山、里の食材の活用、魚介類流通の仕組み改善など、地産地消の仕組みの検討

◇ 図-17 計画マップ



※用語説明

用語	説明
アクションプラン	政策や企画を実施するための行動計画。
アグリツーリズム	広義には「都市と農村の交流」の意で、日本では一般に「グリーンツーリズム」と呼ばれる。
アンテナショップ	企業や自治体などが自社(当該地方)の商品等の紹介や消費者の反応を見ることを目的として開設する店舗
インターネットリサーチ	インターネットを通じた調査。
インバウンド	もともとは「帰ってくる」、「内向きの」という意味で、外国人旅行者を日本へ誘致すること。
インフォメーションセンター	ここでは、あらゆる観光情報の提供を行う施設。
インフラ	「インフラストラクチャー」の略で、社会的経済基盤と社会的生産基盤とを形成するものの総称で、道路・港湾・河川・鉄道・通信情報施設・公園などが含まれる。
エコスポット	ここでは、環境に関する見学、体験、学習ができる場所又は施設をいう。
エコツーリズム	地域の環境や生活や文化を破壊せずに自然や文化に触れ、それらを学ぶことを目的に行う旅行。
SNS	社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービス(Social Networking Service)の総称。
観光コンテンツ	観光の分野において、集客する力のある魅力的な場所や催事、情報など。
キャッチコピー	特に人の注目をひくことを意図した短い広告文や宣伝文句。
京丹後市博士	「京丹後市博士育成講座」受講生の中から認定された、郷土の歴史や文化財を知るサポーター役。
京丹後ふるさと応援団	本市の発展を真に応援してくださる方々の輪を全国に広げ、本市と団員の方々双方向の連携を通して、活力あるまちづくりの推進を図る、ふるさと京丹後の応援組織。
京都府丹後観光圏(観光圏)	観光庁では、複数の観光地が連携して2泊3日以上滞る型観光地「観光圏」の形成を促進しており、京丹後市を含む3市2町で形成する「京都府丹後観光圏」が、平成20年に国の認定を受けた。
クラインガルテン	ドイツ語で「小さい庭」を意味する滞在型農園。
グリーンツーリズム	農山漁村などに長く滞在し、農林漁業体験やその地域の自然、文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむ旅行。
グローバル化	様々な領域の問題が多く、国を巻き込んで地球規模に拡大している事態。
ケーブルテレビ	通常の電波を使った放送ではなく、各家庭まで専用のケーブルを引いて限定された地域に放送を提供するサービス。京丹後市では平成21年12月にサービス開始。
コミュニティFM	通常のFMより出力の小さい、市町村単位の小規模なFMラジオ放送。京丹後市では「FMたんご」が平成21年に開局。
コミュニティビジネス	地域課題に対して、地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする事業。
コンセプト	概念、観念。
サイクルトレイン	自転車を列車に持ち込み、目的地まで行けるサービス。
サイン	看板。
さと歩き	ジオサイトをはじめとした自然や地域の暮らしを訪ねながら歩くこと。
山陰海岸ジオパーク	ジオパークとは科学的に見て重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を複数含む一種の自然公園のことで、山陰海岸ジオパークは京丹後市から鳥取市までの3府県3市3町が含まれます。
ジオサイト	科学的に見て重要で貴重な、あるいは美しい地質のある場所。
ジオツーリズム	地学的、地理的な観点に立って自然を見ながら行う旅行。
ジオトレッキング	ジオパークを楽しみながら歩くこと。
シータクシー	小型船舶を利用したチャーター船で海上タクシーとも呼ばれ、海上運送法第20条2項の「人の運送をする不定期航路事業」に該当する。
指定管理者制度	地方公共団体や外郭団体に限定していた公の施設の管理・運営を、株式会社をはじめとした営利企業・財団法人・NPO法人・市民グループなど法人その他の団体に包括的に代行させることができる制度。
食味ランキング	財団法人日本穀物検定協会が毎年実施するもので、平成23年産米の食味ランキングで、全国129の産地・品種の中から丹後産コシヒカリが、おいしい米産地の証明となる最高評価の「特A」ランクを獲得した(平成19年産から5年間で4回目)。

上限 200 円バス	丹後海陸交通との協働により、京丹後市内全域、すべての路線バスの利用料金を上限 200 円バスとするもの。市営バスについても同様に全路線を上限 200 円としている。
スポーツツーリズム	スポーツを体験する目的を持った旅行。
スローライフ	生活様式に関する思想の一つで、地産地消や歩行型社会を目指す生活様式、自分のできることだけを自前でやり、他人からの批判を受けなくて生きていきたいという生き方。
世界ジオパークネットワーク	2004 年にユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の支援により設立された、世界的に貴重な地形や地質がある自然公園を世界ジオパークとして認定する団体。
丹後広域観光キャンペーン協議会	舞鶴市、宮津市、京丹後市、与謝野町及び伊根町の範囲で、京都府、各市町、民間の観光関連事業者・団体が一体となって、丹後地域の豊かな観光資源を幅広く情報発信し、観光客の誘致に努める組織。
丹後観光口コミ大使	丹後広域観光キャンペーン協議会が実施する「北京都丹後ふるさと検定」の合格者の中から、ふるさと丹後の魅力を観光客などに発信していただく大使として認定された方。
着地型観光	出発地で企画された旅行商品(発地型観光)に対して、観光地側の視点で企画された旅行商品のこと。
ツール	道具。
デジタルブック	パンフレットなどの印刷物をそのまま電子データ化したもので、ホームページ上での閲覧などが可能となる。
日本風景街道	道を舞台に地域住民や企業、行政など多様な主体による協働のもと、地域資源を活かした美しい国土景観の形成を図り、観光の振興や地域の活性化に寄与することを目的とした国土交通省の取り組み。平成 19 年に、国道 178 号(丹後町～久美浜町)のルートが登録された。
農家民泊	農家に宿泊して農作業体験や田舎暮らしを通じて、都市と農村の交流を図る取り組み。
バイオマス	家畜排せつ物や生ゴミ、木くずなどの動植物から生まれた再生可能な有機性資源。
パワーブロッガー	特定のサービスや商品に対して強い興味と深い知識を持ち、一般消費者に対して、大きな影響力を持つブログを提供する人々。
ビジット・ジャパン事業	政府による、訪日外国人旅行者数を将来的に 3,000 万人とすることを目標として、官民一体となって、海外に向けて日本観光の魅力発信、魅力的な訪日旅行商品造成の支援等を行う事業。
フードフェア	食を題材とした催事。
フィールドワーク	テーマに即した場所(現地)を実際に訪れ、その対象を直接観察たり調査を行うこと。
フィルムコミッション	映画、テレビドラマ、CM などのあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致し、実際のロケをスムーズに進めるための非営利公的機関。
プラットフォーム	事業推進の基礎となる組織体。
ブログ	日付入りの記事ページを中心としたホームページ。
プロパー人材	専門の人材。
分宿	集団のメンバーが分かれて宿泊すること。
ヘルスツーリズム	自然豊かな土地を訪れ、自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持する新しい観光形態。
ホスピタリティ	旅行者や客を親切にもてなす気持ちや態度。
マーケティング	顧客が真に求める商品(サービスを含む)を作り、その情報を届け、顧客がその商品を得られるようにする活動を表す概念。
マスタープラン	基本的な方針として位置づけられる計画。
まちの駅	公共施設、個人商店など、既存空間を利用し、地域情報を提供し、交流を促進させる場。「おもてなし」の地域を目指し、これらの施設(駅)をネットワークする取り組みが各地で進められている。
ゆるキャラ	「ゆるいマスコットキャラクター」の略で、地方公共団体などがイベント、各種キャンペーン、村おこし、名産品の紹介などのような地域全般の情報 PR などに使用するマスコットキャラクター。
リピーター	一度訪れた施設や店舗、旅行先などに何度も足を運ぶ人のことを指す。
リピート	繰り返すこと。
ワンストップ窓口	一箇所で複数のサービスを提供する窓口。